

感染症定期報告の報告状況(2006/4/1~2006/8/31)

資料No.4-1

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2006/4/3	60001	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	HIV	AABB Weekly 2005; 11(42): 9	中国で、HIVと自覚していなかった41歳の男性が、2003年1月から2004年6月にかけて15回売血をし、その血液は患者25例に輸血された。そのうち約18例がHIVに感染し、うち3例が死亡した。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1253-1256	米国におけるウエストナイルウイルス(WNV)のヒト発症例は、2005年1月1日から12月1日では2744例で、42州596郡から報告された。2004年同時期の2359例より増加した。2744例中1165例(42.5%)はWNV神経侵入病で、1434例(52.2%)はWN熱であった。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ TMP 2006年2月10日	カナダ公衆衛生庁はインド洋南西地域のフランス領レユニオン諸島で大流行中の蚊媒介感染症であるチクングンヤウイルスを監視中である。2006年2月10日2005年3月28日から2006年1月8日の間に7138例の感染例が報告され、そのうち2147例が検査により確定された。この感染は2005年初頭にアフリカ東海岸のコモロス諸島で流行したものが広がったもので、マイヨット、モーリシャス、セイシエルでも報告されている。予防ワクチンはない。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ TMP 2006年2月20日	カナダ公衆衛生庁はオーストラリアで増加しているロスリバーウイルス(RRV)とバーマーフォレストウイルス(BFV)を監視中である。1月中にRRV感染は838例、BFV感染は127例と、各々、5年平均率の約4倍、2倍となった。両ウイルスとも蚊によって媒介され、ヒトからヒトへの感染はない。
2	2006/4/3	60002	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
3	2006/4/3	60003	伊藤ライフサイエンス株式会社	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(45)	英国保健省はWelsh National Public Health Serviceらと共同で、HEV流行地域への旅行に無関係なHEV感染患者の地域的、臨床的、分子疫学的特徴に関する研究を行った。1996年から2003年の間にE型肝炎と血清学的に診断された186例中、外国旅行に関係していない感染者は17例で、全て英国のブタのHEV株、遺伝子型3型に感染していた。本所見からE型肝炎はイングランドおよびウェールズに固有の型であることが示唆された。
												鳥インフルエンザ	ProMed20051224-0094	中国で30の省および自治区のうち11月中に8、12月に1の地区の家畜で鳥インフルエンザの流行が続いている。2005年に中国では21の流行があり、144624羽の鳥が死亡し、2110万羽が処分された。WHOによるとヒトへの感染は5例あり、2例が死亡した。
												感染	ProMed 20060108-0060	コンゴの西Kasai州で病死したブタを食べた80人以上が死亡した。肉不足のため、行政がこれを止めることは実質的に不可能である。汚染ブタは高熱と下痢で、数時間で死亡した。原因は不明である。
4	2006/4/5	60004	東菱薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出物	ナプトピン「注」	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1848-1853	げっ歯類がハンタウイルスの感染源と考えられていたが、それ以外の感染ルートがあることが示唆された。2002年にアルゼンチンで発生したハンタウイルス肺症候群(HPS)の患者13例について分析した。その結果、前兆期またはその後の短期間に、ウイルスのヒトからヒトへの伝播が起こったと考えられた。
												ロタウイルス陽性	Virus Res 2005; 113: 73-80	2004年2月にハンガリーで、1つの群れのウサギ60羽が急性腸炎で死亡した。その原因を詳しく調べたところ、新しい家兎ロタウイルスP[22]が同定された。
												E型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 3042-3048	韓国でヒトから分離したHEVは、ブタのHEVと92.9-99.2%のヌクレオチド相同性があった。また日本株およびUS株とアミノ酸配列で97.9-99.6%の相同性があった。韓国の人口の11.9%は抗HEV IgGを持っていると考えられ、韓国でHEV感染が広がる可能性が示唆された。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2006; 168: 151-157	vCJD病患者の脳に蓄積する異常プリオン蛋白について、従来の抗体と、1型に特異的な新しい抗体を用いてウェスタンブロット法により検討した。その結果、2型だけでなく、1型も脳内に広く存在することが初めて明らかになった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
5	2006/4/5	60005	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	無	無	無			
6	2006/4/5	60006	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
7	2006/4/5	60007	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	米国、 ニュー ジーランド、 オース トラリア	製造工程	無	無	無			
8	2006/4/5	60008	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素	ウマ血清	ウマの血清	米国	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
9	2006/4/5	60009	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
10	2006/4/5	60010	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
11	2006/4/5	60011	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
12	2006/4/5	60012	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
13	2006/4/5	60013	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	無	無	無			
14	2006/4/5	60014	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	日本	製造工程	無	無	無			
15	2006/4/5	60015	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
16	2006/4/5	60016	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウスの脳	マウス	日本	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
17	2006/4/5	60017	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
18	2006/4/5	60018	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし (製造中止品目)	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月5日	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト症例2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												鳥インフルエンザ	Nature 2006; 439: 248-249	トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。ヘムアグルチニン受容体蛋白の223位アミノ酸の置換、ポリメラーゼ蛋白の627位アミノ酸置換およびヘムアグルチニン蛋白153位アミノ酸変異である。前者はトリインフルエンザウイルスと宿主細胞表面受容体との結合に、ポリメラーゼ変異は複製に影響を与える。トルコ株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ウイルスをヒトに馴化させていると考えられる。
19	2006/4/5	60019	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国、ニュージーランド (現在、種菌培養工程で米国産は使用していない)	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
20	2006/4/5	60020	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
21	2006/4/5	60021	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞	1966年に樹立したマスタセルバンクに使用したヒトの細胞株	製造工程	無	無	無			
22	2006/4/5	60022	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
23	2006/4/6	60023	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	リンパ性脈絡髄膜炎	CDC Birth Defects 2005年10月5日	リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)は野生マウスによって運ばれ、ペットのげっ歯類に感染する。ヒトは感染したペットの尿、血液、唾液などから感染し、妊婦が感染した場合には胎児も感染する可能性がある。生まれる前にLCMVに感染した乳幼児は重篤な奇形を有する可能性がある。
24	2006/4/6	60024	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。
												日本脳炎	第9回日本ワクチン学会学術集会 /87	2004年度のヒトおよびブタにおける日本脳炎抗体保有状況を、ヒトで8都県約2000人、ブタで33都道県約4000頭を対象に調査した。その結果、現在も日本に日本脳炎ウイルスが存在していることが示された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ロタウイルス陽性	第53回日本ウイルス学会学術集会/261	2003年11月から2004年10月に岡山市内のと畜場で採取された成豚の盲腸便について、C群ロタウイルス(CRV)の有無をnested PCR法により検討した。その結果、10検体(1.5%)がCRV陽性であった。またPCR産物の塩基配列を解析したところ、Cowden株に近縁なタイプであった。
25	2006/4/6	60025	デンカ生研株式会社	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2108-2112	ヒトから分離されたH5N1ウイルスHAは開裂部位に塩基性アミノ酸が連続しており、ヒトへ順化していない段階で50%以上の致死率を示す。また同ウイルスに2ヶ所のアミノ酸変異を導入するだけでヒト型受容体への親和性を獲得する。
												鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2103-2107	2003年12月から2005年5月に、トリインフルエンザA/H5N1ウイルスはベトナム、タイ、カンボジアで100人に感染し、54人が死亡した。大部分はトリからの感染であるが、ヒト-ヒト感染も報告されている。サーベイランス網構築、ワクチン開発、抗ウイルス剤備蓄などが必要である。
												鳥インフルエンザ	侵襲と免疫 2005; 14(4): 105-110	トリインフルエンザに関する総論。トリインフルエンザウイルスの構造、疫学、病原性、ヒトへの感染性、診断法、防疫法について述べている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
26	2006/4/6	60026	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2006; 55(03): 65-68	2004年から2005年にかけて米国で発生したヒトにおけるオルフウイルス感染4例についての報告。オルフウイルスはヒツジやヤギなどの小型反芻動物と関係する人畜共通感染症で、接触後に潰瘍性皮膚病変が起こる。医師の認識不足のため、診断の遅れや不必要な抗生物質の使用がみられる。オルフウイルス感染症の危険性や予防に関する認識を広める必要がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
27	2006/4/6	60027	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージラランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
28	2006/4/6	60028	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
29	2006/4/6	60029	デンカ生研株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
30	2006/4/6	60030	デンカ生研株式会社	ワイル病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛内臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
31	2006/4/6	60031	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県のア房地域において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)0121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC0121が検出された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛肉臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
32	2006/4/6	60032	デンカ生研株式会社	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県の上野地区において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)O121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC O121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛肉臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
33	2006/4/6	60033	デンカ生研株式会社	ウイルス病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
34	2006/4/6	60034	デンカ生研株式会社	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 480	2004年6月、千葉県の上野地区において発生した腸管出血性大腸菌(VTEC)O121による集団感染の原因を調べた。感染源と疑われたふれあい牧場の牛舎土壌、牛糞、山羊糞から患者と同一のVTEC O121が検出された。
												大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 1004	2004年8月に一般牛肉店で購入した市販の牛肉臓肉40検体について、生菌数およびO157の調査を行った。40例中32例は、1g当たりの生菌数が10万台以上であり、食肉より高かった。また40例中2例でO157が検出された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
35	2006/4/6	60035	日本メジック株式会社	診断薬	テクネチウム大凝集人血清アルブミン	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
36	2006/4/7	60036	三共株式会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
37	2006/4/7	60037	武田薬品工業株式会社	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
38	2006/4/7	60038	武田薬品工業株式会社	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
39	2006/4/7	60039	テルモ株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	無	無	無			
40	2006/4/10	60040	日本赤十字社	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	ProMED20060112 -0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428- 5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												コロナウイルス 感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルティニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
												デング熱	Blood 2005; 106(11): Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
41	2006/4/10	60041	沢井製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳合宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起こったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。
42	2006/4/10	60042	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	血液凝固第Ⅲ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したヒトが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
43	2006/4/10	60043	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国、フランス、アメリカ、カナダ	製造工程	無	無	無			
44	2006/4/11	60044	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	アポセルロプラスミン	ヒト血液	日本	製造工程	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
45	2006/4/11	60045	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ膵臓	カナダ・イタリア・アメリカ	製造工程	無	無	無			
46	2006/4/11	60046	財団法人化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	日本	製造工程	無	無	無			
47	2006/4/12	60047	宇治製薬株式会社	コンドロイチン硫酸鉄コロイド	コンドロイチン硫酸ナトリウム	牛の軟骨	米国		無	無	有			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
48	2006/4/13	60048	サノフィバ スツール 第一ワク チン株式 会社	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	無	無	無			
49	2006/4/13	60049	小林化工 株式会社	コンドロイチン硫酸ナトリウム・ サリチル酸ナトリウム	コンドロイチ ン硫酸ナトリ ウム	ウシの軟骨	アメリカ	有効成分	無	無	無			
50	2006/4/14	60050	社団法人 北里研究 所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワク チン	トリプシン	ブタ脾臓	米国、カナ ダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエン ザ	J Virol 2005; 79: 10821-10825	2004年にベトナムのブタにおいてH5N1型トリインフルエンザウイルスに 関する血清学的検査を行った。ブタ血清3175例中、8例(0.25%)が陽性で あった。2004年アジアH5N1型ウイルスのブタでの感染実験の結果、ブ ターブタ間の伝播は簡単には起こらないことが示された。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874- 1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの 糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺 伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定 された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連 性があった。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5963- 5972	ブタサボウイルス(SaV)の遺伝的多様性を調べるため、1999年から 2003年に米国のブタ農場で採取したブタ糞便から検出した9例のブタ SaVIについてヌクレオチド配列を詳細に調べた。その結果、新しいゲノ グループを同定し、組み換え型を同定した。ブタSaVがヒトSaVと遺伝的に 近い関係にあることを初めて報告した。
51	2006/4/14	60051	社団法人 北里研究 所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初 代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	有	無	無	細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで 74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者 は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水 腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウ サギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈 弁切片のPCRにより同定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
52	2006/4/14	60052	富士製薬工業株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国、ブラジル	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの近況。中国保健省はH5N1型トリインフルエンザウイルス感染と新たに確定診断されたヒト2例を報告した。2例とも危篤状態である。
												ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
53	2006/4/14	60053	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージーランド、米国、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
54	2006/4/14	60054	富士製薬工業株式会社	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ：ニュージーランド、ブタ：デンマーク	製造工程	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
55	2006/4/14	60055	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	細菌感染	Pediatr Infect Dis J 2005; 24: 1099-1103	新生児集中治療室(NICU)で発生したRalstonia pickettii菌血症患者18例について、非感染のNICU乳幼児を対照として、比較検討試験を行った。統計的に有意な危険因子は示されなかったが、感染群は全員、病院の薬局で調剤されたヘパリン灌流を受けていた。
												細菌感染	J Hosp Infect 2006; 62: 250-251	ヘパリンの静脈内注入に関連したAgrobacterium tumefaciensによる菌血症3例を報告した。患者から分離された菌は異なった株であった。全例ともカニューレをはずすことで症状は回復した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
56	2006/4/17	60056	サノフィアベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
57	2006/4/17	60057	サノフィアベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
58	2006/4/17	60058	サノフィアベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ノルウェー、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、スロバキア、チェコ共和国	製造工程	無	無	無			
59	2006/4/18	60059	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	マウスモノクローナル抗体	マウス脾臓細胞と骨髄腫細胞のハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	無			
60	2006/4/18	60060	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	ヤギIgG	ヤギ血液	米国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
61	2006/4/18	60061	株式会社ベネシス	乾燥抗HBs人免疫グロブリン ポリエチレングリコール処理 抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサナル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミューールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
62	2006/4/19	60062	財団法人化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加人免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1648-1649	2003年米国で、ウエストナイルウイルス(WNV)に感染したカラスの脳の飛散物を目に曝露したトガが7日後に発症し、核酸増幅法でWNV RNAが検出された。14日目にはWNVに対するIgM抗体が検出された。初めての、結膜からの感染例と思われる。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
63	2006/4/20	60063	三共株式会社	トロンビン	トロンビン	牛の血漿及び肺	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
64	2006/4/20	60064	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヒトアルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	添加物	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
65	2006/4/20	60065	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	アプロチニン	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
66	2006/4/20	60066	ZLBベリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
67	2006/4/20	60067	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ウマコラーゲン	ウマアキレス腱	フランス、ドイツ、ベルギー、イタリア	支持体	無	無	無			
68	2006/4/20	60068	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	トロンビン画分	ウシ血液	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
69	2006/4/20	60069	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	トロンボプラスチン	ウサギ脳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
70	2006/4/20	60070	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヘパリン	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
71	2006/4/20	60071	ZLBベアリング株式会社	ヒトフィブリノゲン トロンビン画分 アプロチニン	ヒトフィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	バルボウィルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウィルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
72	2006/4/20	60072	日立化成工業株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	レプトスピラ症	第88回日本細菌学会関東支部総会	動物取り扱い業者の従業員2名がレプトスピラ症と診断され、原因究明を行った。その結果、アメリカモモンガが感染源であった。分離株は Leptospira kirschneri serovar Grippotyphosa と同定された。
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2005年第51週、52週合併号: 15-16	WHO/CSR 2006年1月5日の報告。トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												寄生虫感染	第37回日本小児感染症学会総会・学術大会 2005年11月11-12日	平成16年8月に長野県での水泳谷宿で、千葉県の子童45例がクリプトスポリジウム感染と診断された。感染者が使用した千葉県のプールから同菌が検出され、2例が発症した。プールを介しての2次感染が起ったと考えられた。プールが感染経路と考えられる日本で初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第2週: 17-18	Nature 2006; 439: 248-249の報告。トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。トルコの株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ヒトに感染しやすくなっている。
												鳥インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第3週: 13	2006年2月2日にWHOが発表した、2003年から2006年までのアジアにおけるヒトでのH5N1亜型トリインフルエンザの国別確定症例数および死亡例数を掲載している。感染地域が徐々に拡大している。WHOは現在のパンデミック警戒レベルをフェーズ3としている。
												インフルエンザ	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第4週: 5-7	日本におけるインフルエンザの定点当たり報告数は全国レベルで32.4(報告数151,878)となり、増加が続いている。分離報告の99.7%がA型であり、その多くがAH3型である。インフルエンザの流行は西日本から東日本に広がりつつあり、引き続き注意が必要である。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	感染症雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までブルトルコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
												レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週: 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
												感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週: 3	日本における2006年第11週(3月23日集計分)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
73	2006/4/20	60073	日立化成工業株式会社		アレルギー性疾患患者から抽出、精製した抗アレルギー物質	ヒト尿	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 6020-6026	ザンビアで2週間以上、結核の症状を呈した213例の患者(69%がHIV陽性)の喀痰を検査したところ非結核性マイコバクテリア(NTM)が90例から分離された。無菌部位からの検体25例中8例がNTM陽性であったが、このうち4例からMycobacterium lentiflavumが、1例からMycobacterium goodiiが分離された。両菌の感染がアフリカで示された初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染症学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	感染症学雑誌 2006; 80: 56-57	平成17年8月24日から28日までブルトルコ、その後ロサンゼルスへ出張し、9月4日に帰国した30歳男性が、発熱、頭痛、両上下肢に紅斑丘疹を呈した。日本脳炎HI抗体が高値であったためウエストナイル(WN)ウイルス感染を疑い血清・病原体検査したところ、IgM捕捉ELISAと中和抗体検査が陽性であり、WN熱と確定診断した。
												レンサ球菌感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第10週 5-7	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は日本では例年冬季から夏季にかけて報告数の増加がみられる。感染症動向調査によれば、2006年は1996年以降の過去10年間と比較して、報告が最も多い状態が続いている。
												感染	Infectious Diseases Weekly Report JAPAN 2006年第11週 3	日本における2006年第11週(3月23日集計分)の5類感染症の定点把握結果を報告した。小児科では咽頭結膜熱が第5週以降、増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。マイコプラズマ肺炎は増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。
74	2006/4/21	60074	第一アスピオファーマ株式会社	インターフェロンガンマ-1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	感染	ProMed20051030-0050	ナイジェリアJigawa州で原因不明の疾患により54人もの小児が死亡し、数人が危篤である。この奇病は、高熱で始まり、2-5歳の小児が感染する。最初、発疹が現れ、まもなく死亡する。現地の医療当局は調査を開始した。
												鳥インフルエンザ	ProMed20060217-0090	2003年にアジアでトリインフルエンザが広がり始めて以来、25家族の感染が報告されている。兄弟、親子などの血縁が関係する場合が圧倒的多数で、夫婦とも陽性だったのは3家族に過ぎない。同じように感染した鳥に暴露しても発病率に差があることから、遺伝的に感受性の高いヒトがいる可能性がある。しかし、感受性を遺伝子に結論付けるには時期尚早である。
												感染	ProMed20060322-0040	アンゴラHuambo州Tcholindi村で原因不明の疾患により10人が死亡した。患者は、まず脚が冒され、次に腸に広がり、1週間以内に死亡する。公衆衛生の専門家が近いうちに現地調査をする予定である。
75	2006/4/21	60075	東菱薬品工業株式会社	パトロキソピン	パトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
76	2006/4/21	60076	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
77	2006/4/21	60077	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	インスリン	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
78	2006/4/21	60078	バイエル薬品株式会社	pH4処理酸性人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイパー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画Ⅱ+Ⅲから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロプを持つウイルスだけでなく、エンベロプを持たないウイルスも高率に除去された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
79	2006/4/21	60079	バイエル薬品株式会社	オクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ臍臓	米国	製造工程	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency HP 2006年3月3日	2006年1月12日、カナダのアルバータで異常な運動と姿勢を呈した69月齢のウシがBSEと診断された。カナダにおける4例目のBSE報告である。2003年以来88,000以上の検査が行われ、陽性例は4例しかないことから、カナダでのBSE発生率は極めて低いと考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
80	2006/4/21	60080	ハイエル薬品株式会社	人血清アルブミン オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	有	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロプを持つウイルスだけでなく、エンベロプを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360～490日後に、脳抽出物を接種した群は230～280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
81	2006/4/21	60081	バイエル薬品株式会社	オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペブシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年の間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトTリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
82	2006/4/21	60082	バイエル薬品株式会社	加熱人血漿たん白 オクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	加熱人血漿たん白	ヒト血液	米国	有効成分製造工程	有	有	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												BSE	Australian Government TGA HP 2005年9月21日	オーストラリア政府は、ヒトおよび動物性医薬品を介した伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を最小限にするために、修正付きEUガイドラインを採択した。本ガイドラインを掲載している。
												BSE	BMC Biotechnology 2005; 5(26): 1-5	PrPシードの有無でPrP単量体のポリマー化動態が異なることを利用して、PrP凝集体の高感度検出法を開発した。凝集体の検出はフローサイトメトリーで行った。診断モデルではPrP凝集体は0.24fg/mlまで検出できた。BSE陽性のウシの血清検体6例全てで特異的なシグナルが検出された。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 97-104	ヒト血漿から高収率にIgGを得る方法を検討した。コーン分画II+IIIから、カプリル酸処理、ポリエチレングリコール沈殿、陰イオン交換クロマトグラフィー、ウイルスフィルター濾過で精製する事で、高収率なIgGが得られ、ウシウイルス性下痢ウイルスとヒトパルボウイルスB19を効率的に除去できた。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2006; 90: 21-32	15nmフィルターで濾過された液体免疫グロブリン製剤、ナノガムのウイルス安全性について検討した。本製品の製造過程には、pH4.4でのペプシン処理と組み合わせた15nmフィルター濾過と、SD処理が含まれている。その結果、エンベロップを持つウイルスだけでなく、エンベロップを持たないウイルスも高率に除去された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Scienceexpress HP 2006年1月26日	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly releases 2006; 11(2) 2006 年2月9日	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。これら3例はすべて非白血球除去赤血球を輸血されたことが確認されている。
												HIV	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(05): 121-125	米国33州における2001年から2004年のHIV/AIDS患者の人種・民族間の格差について調べた。HIV感染診断数157,252例のうち、黒人の割合は、他の人種・民族の合計よりも高かった。非ラテンアメリカ系黒人は33州の人口の約13%であるが、HIV/AIDS診断数の51%を占め、男性患者の44%、女性患者の68%であった。10万人当たりの症例数で見ると、どの感染経路別診断数においても黒人は最も高い値を示した。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	Transfusion 2005; 45: 1593-1600	アメリカ赤十字の研究データベースからドナー延期および献血データを抽出し、分析した。2000年から2001年に潜在的な感染症の危険性のために一時的に献血を延期されたドナーのうち、2000年から2003年間に再度献血に訪れた人は22.08%しかいなかった。これら一時的延期ドナー群と、2000年から2003年の初回または反復ドナー群とを比較したところ、HIV、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスおよびヒトリンパ球親和性ウイルスのどのウイルスマーカーについても高い罹患率は見られなかった。
83	2006/4/21	60083	バクスター株式会社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
84	2006/4/21	60084	日本化薬株式会社	BCG・コンノート株	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	牛型結核菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
85	2006/4/21	60085	中外製薬株式会社	トシリズマブ(遺伝子組み換え)	ガラクトース	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
86	2006/4/21	60086	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ブタラードウォーター	ブタ脂肪	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
87	2006/4/21	60087	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタ胃液	不明	製造工程	無	無	無			
88	2006/4/21	60088	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え)	プリマトンHS/UF	ウシ脾臓、心臓、ウマ脾臓、脛肉	ウシ:米国、ウマ:米国、カナダ、ブタ:米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
89	2006/4/21	60089	中外製薬株式会社	1.トラスツズマブ(遺伝子組換え) 3. ストレプトコックスピオゲネス(A群3型)Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	パンクレアチン	ブタ膵臓	1米国、カナダ 3、日本、米国、カナダ、フランス	製造工程	無	無	無			
90	2006/4/21	60090	中外製薬株式会社	トラスツズマブ(遺伝子組換え) レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチンペータ(遺伝子組換え) トシリズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巢細胞	チャイニーズハムスター卵巢	不明	製造工程	無	無	無			
91	2006/4/21	60091	中外製薬株式会社	レノグラスチム(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血漿	不明	製造工程	無	無	無			
92	2006/4/21	60092	中外製薬株式会社	レノグラスチム(遺伝子組換え) エボエチンペータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
93	2006/4/21	60093	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
94	2006/4/21	60094	中外製薬株式会社	レノグラステム(遺伝子組換え) エポエチンベータ(遺伝子組換え)	DMEM/F12	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
95	2006/4/24	60095	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
96	2006/4/24	60096	武田薬品工業株式会社	注射用乾燥セルモロイキン(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	E型肝炎	CDR Weekly 2005; 15(30)	2004年に英国の国立血液サービス・保健省感染症センターの感染症サーベイランスに報告された輸血伝播性感染と疑われた症例は34例であった。そのうちE型肝炎1例のみが輸血を介して伝播した感染と確定された。ドナーが献血23日後に黄疸を発症し、保管サンプルで、HEV RNA陽性を確認した。赤血球輸血を受けたレシピエント(男, 65才)は2ヵ月後にHEV RNAとHEV IgMが陽性であった。解析の結果、ドナーとレシピエントのウイルスは同一であることが示された。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあった。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ Canadian Blood Services	2005年8月15日、カナダ血液サービスは、英国やフランスなどの最新のセーフガード情報に基づき、vCJDに関連した供給停止措置の変更を行った。また刺青やピアスをしている人などに対する一時的供血停止の変更を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
97	2006/4/24	60097	日本製薬株式会社	乾燥抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
98	2006/4/24	60098	日本製薬株式会社	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005 ;11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
99	2006/4/24	60099	沢井製薬株式会社	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
100	2006/4/25	60100	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	加熱人血漿たん白	人血液	米国	添加物	無	無	無			
101	2006/4/25	60101	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	鶏卵由来成分	鶏卵		製造工程	無	無	無			
102	2006/4/25	60102	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
103	2006/4/25	60103	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ウシ乳由来成分	ウシ乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	無	無	無			
104	2006/4/25	60104	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ヒツジ血清由来成分	ヒツジ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
105	2006/4/25	60105	大日本住友製薬株式会社	インターフェロナルファ(NAMALWA)	ヒトリンパ芽球細胞樹立株ナマルバ細胞	ヒト細胞		製造工程	無	無	無			
106	2006/4/25	60106	日本メジック株式会社	人血清アルブミンジェチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	人血清アルブミンジェチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
107	2006/4/26	60107	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ球免疫ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
108	2006/4/26	60108	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末梢血	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
109	2006/4/26	60109	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
110	2006/4/26	60110	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	YAHOO!Japan NEWS (毎日新聞) 2006年1月10日	2006年1月10日、鳥インフルエンザ(H5N2型)が確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等353名中77名が、血液中の抗体検査で陽性と判定されたと、厚生労働省が発表した。発症者はいない。H5N2型は弱毒型で鶏に全く症状を起こさないが、新型ウイルスに変異するおそれがあるため、同省は注意を呼びかけている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。
111	2006/4/26	60111	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
112	2006/4/26	60112	日本臓器製薬株式会社	抗ヒトTリンパ球ウサギ免疫グロブリン	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
113	2006/4/26	60113	ゼローノ・ジャパン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日-2005年9月28日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例, 症例1例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例。-Montana州Carbon郡, Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月28日~2005年9月14日):ウマにおいて疑い例9例, 症例6例, ヤギにおいて疑い例2例。-Wyoming州Big Horn郡, Fremont郡, Goshen郡, Hot Springs郡, Park郡, Platte郡, Sublette郡, Washakie郡の農場(15件)(アウトブレイクの開始日2005年8月21日~2005年9月15日):ウマにおいて疑い例84例, 症例15例, ウシにおいて疑い例855例, 症例7例, ヤギにおいて疑い例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(40) 2005年10月7日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 19。今回報告終了日ー2005年10月2日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例30例, 症例1例ーIdaho州Bear Lake郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月16日):ウマにおいて疑い例14例, 症例2例, ウシにおいて疑い例360例ーUtah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日):ウマにおいて疑い例7例, 症例1例ーWyoming州Bighorn郡, Carbon郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡, Platte郡の農場(13件)(アウトブレイクの開始日2005年9月12日~2005年9月24日):ウマにおいて疑い例393例, 症例15例, ウシにおいて疑い例2100例, 症例5例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED 2005年10月7日	2005年10月4日, ニューヨーク州Plum Islandの外来性動物疾患診断研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で, 初の水疱性口内炎New Jersey 株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは, 発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は, 2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。加えて10月5日に, アイオワ州Amesの国立獣医学研究所は, ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある別の施設で飼育されていたウマについて, ウイルス分離により水疱性口内炎と診断確定した。問題の2施設は同じScotts Bluff郡内にあるが, それぞれは約24マイル離れている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(41) 2005年10月14日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 20。今回報告終了日ー2005年10月9日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細ーColorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月18日, 2005年9月25日):ウマにおいて疑い例9例, 症例5例, ウシにおいて疑い例120例, 症例1例。Colorado州Big Horn郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月25日, 2005年9月28日):ウマにおいて疑い例48例, 症例5例。ーNebraska州Scotts Bluff郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月29日, 2005年9月30日):ウマにおいて疑い例6例, 症例1例, ウシにおいて疑い例61例, 症例3例。ーUtah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月23日):ウシにおいて疑い例8例, 症例3例。ーWyoming州Bighorn郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡の農場(11件)(アウトブレイクの開始日2005年8月15日~2005年10月1日):ウマにおいて疑い例83例, 症例11例, ウシにおいて疑い例208例, 症例4例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(42) 2005年10月21日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 21。今回報告終了日ー2005年10月16日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクーWyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例。ーWyoming州Carbon郡Encampmentの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月4日):ウマにおいて疑い例5例, 症例1例。ーWyoming州Fremont郡Rivertonの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月29日):ウマにおいて疑い例3例, 症例1例。ーWyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月29日):ウシにおいて疑い例100例, 症例1例。ーWyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月30日):ウシにおいて疑い例37例, 症例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(43) 2005年10月28日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 22: 今回報告終了日ー2005年10月23日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。アウトブレイクの初回確定日ー2005年4月27日。アウトブレイクの開始日ー2005年4月16日。新規アウトブレイクーColorado州Delta郡Delta, Mesa郡Grand Junction, Montezuma郡Cortezの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月1日, 2005年10月5日): ウマにおいて疑い例7例, 症例2例, ウシにおいて疑い例55例, 症例1例。ーIdaho州Caribou郡Graceの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月9日): ウマにおいて疑い例9例, 症例4例。ーMontana州Big Horn郡St. Xavierの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月6日): ウマにおいて疑い例2例, ウシにおいて疑い例27例, 症例4例, ヒツジにおいて疑い例37例, ヤギにおいて疑い例1例。ーUtah州Summit郡Oakleyの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月8日): ウマにおいて疑い例5例, 症例1例, ウシにおいて疑い例12例。ーWyoming州Big Horn郡Hyattville, Campbell郡Gillette, Carbon郡Encampment, Fremont郡のPavillion農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年9月24日~2005年10月10日): ウマにおいて疑い例23例, 症例4例, ウシにおいて疑い例350例, 症例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎ーFollow-up report No. 23: 今回報告終了日ー2005年10月30日。病因の同定ー水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクーColorado州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日): ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。ーNebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日): ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。ーUtah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日): ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, ブタにおいて疑い例12例。ーWyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日~2005年10月16日): ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例, ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒソジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスク、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するもの、などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンプロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE: (米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時: 2004年11月, および確定された日時: 2005年6月) 今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイクの開始日2006年2月27日): ウシにおいて疑い例50例, 症例1例, 処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例であることなど。
114	2006/4/26	60114	セローノ・ジャパン株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	カナダ Public Health Agency of Canada/ Infectious Diseases News Brief 2005年10月28日	2005年10月24日, 保健局のCentre for Health Protection (CHP) は Streptococcus suisの検査確定に関する報告を受けた。症例は2005年にStreptococcus suisに感染した, 香港における12例目の症例である。症例は43才男性で, 最近の旅行はなく, 2005年10月13日に入院し, 同じ日に死亡した。症例の家族は医学的観察下におかれている。CHP職員は追加情報の為に, 症例の家族および病院スタッフとの連絡を続けていく。Streptococcus suis感染症は中国本土において約40名を死に至らしめている。
												細菌感染	ProMED20051015-0040	中国衛生部はコレラ患者の増加に対し, 警告を発した。中国では2005年6月から9月の間に638人のコレラ患者の報告を受け, そのほとんどは福建省と浙江省であった。
												デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは, 50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて, 市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は, 10月15日に発症した際, バングラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり, 全例が輸入患者である。
												デング熱	ProMED20060119-0100	中国(香港)の健康保護センターは, 2006年, 2例目のデング熱輸入患者を確認した。症例は22才の男性で, 最近インドネシアに旅行している。(情報源: News.gov.hk, 2006年1月11日)
												デング熱	ProMED20060128-0020	中国(香港)の健康保護センター当局は, Siu Sai Wan在住の29才女性のデング熱感染を確認したが, 今回の患者発生により, 2006年の合計患者数は3名となった。全て輸入例である。患者は, 2005年12月21日から2006年1月1日までインドネシアを旅行した後, 1月3日に発症した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染症ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家禽農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑似症例2例がHunan省において調査されている。中国におけるヒト症例に対するサーベイランスは、家禽における家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザの再発を受け、先月から強化された2005年10月19日以来、中国は6省におけるアウトブレイク11件を報告している。(ヒト)確定例がみられたHunan省およびAnhui省は、最近感染が起こった省に含まれている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月24日	トリインフルエンザ(update 42): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(3例目)を確認した。死亡した症例はAnhui省において農業従事者として労働していた35才の女性で、2005年11月11日に発症、11月15日に入院そして11月22日に死亡した。この症例は中国における3例目の検査確定症例(2例が死亡)で、Anhui省においては2例目である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月7日	トリインフルエンザ(update 46): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(4例目)を確認した。症例は、Guangxi省の10才の少女で、2005年11月23日に発熱および咳の症状を発症し、その後肺炎となり、依然として入院中である。地元保健当局は暴露原因を確定するため、および患者の住んでいた村および近隣地域における追加症例の捜索のために調査を開始した。現在のところ、インフルエンザ様疾患の追加症例は明らかとなっていない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月9日	トリインフルエンザ(update 47): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(5例目)を確認した。症例は中国北東部のLiaoning省の31才の農婦で、2005年10月30日に発症し、その後重症肺炎と急性呼吸窮迫により病院の集中治療室に収容された。症例は回復し、11月29日に退院した。この症例の初期検査はH5ウイルスサブタイプに対する感染は陰性であったが、microneutralization法による抗体検査により、発症後期に確定診断された。2005年10月末より、Liaoning省では家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザのアウトブレイクが数回報告されている。調査の結果、この症例の感染は、発病した家禽との直接的暴露との関連が示された。農業当局は同省での家禽からH5N1ウイルスを検出している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月16日	トリインフルエンザ(update 49): 中国衛生省はさらに1例のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は南東部のJiangxi省在住の35才男性である。男性は12月4日に熱の症状を呈し、その後肺炎になった。現在も入院中であり、集中ケアを受けている。農業当局は患者の住居の近くにいたアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認している。この症例は中国における第6番目の検査確定症例である。そのうち2例が死亡している。現在までに、中国は5つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi)から症例を報告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月30日	トリインフルエンザ(update 51): 中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。農業当局は現在までに、患者の住居や仕事場の周辺の家禽においてH5ウイルスサブタイプの存在を確認できていない。調査員は発症する前の、患者と家禽の直接的な接触を確認できていない。この症例は中国における7例目の検査確定症例で、これらの症例のうち3例(本症例を含む)が死亡している。現在までに、中国は6つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian)から症例を報告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日	中国におけるトリインフルエンザの状況：中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。新規確定症例の初期調査により、家庭で飼育していた家禽の死亡が暴露原因である可能性があるとして示唆されたが、この地域における家禽のアウトブレイクは公式には報告されていない。密接な接触者は医学的監視下におかれているが、現在のところ、症状を示しているヒトはいない。この症例はHunan省での2例目の症例である。先に報告された同省の症例は、2005年11月中旬に中国で最初に報告された2例のうちの1例であるが、今回の症例とは約300km離れたところに住んでいる。Hunan省に加え、H5N1感染症ヒト症例を報告している省・自治区はAnhui, Guangxi, Liaoning, JiangxiおよびFujianである。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。症例は、密接した住居に8組の家族が居住している住宅に住んでいた。これらの家族メンバーおよび他の密接な接触者が医学的監視下に置かれている。インフルエンザ様疾病の症状は現在のところ報告されていない。この新規確定症例は中国におけるこの症例は中国における9例目の検査確定症例で、これらの症例のうち6例が死亡している。7つの省・自治区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, HunanおよびSichuan)において症例が発生している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月25日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2): 中国衛生省は、同国で10例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は、南中央部のSichuan省、Chengdu市の29才女性で、2006年1月12日に発熱し、肺炎症状で入院したが、急速に悪化し、23日に死亡した。感染源として病気のトリへ暴露した可能性に関する情報は現在のところないが、調査が実施中である。これは今年(2006年)に中国において報告された2例目の症例(いずれもSichuan省から)である。このSichuan省の2症例は、約150km離れた異なる県において発生していた。Sichuan省の他の地方では、家禽におけるH5N1アウトブレイクが、2005年12月下旬に開始していた。2症例が居住する地域におけるアウトブレイクは確認されていない。中国において確認された10例のうち、7例が死亡している。7つの省および地区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, Hunan, およびSichuan)において症例が発生している。うち2省では家禽におけるアウトブレイクは公式に報告されていない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3): 中国衛生省は同国で11例目となる検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症例1例を報告している。症例は中国南東部のFujian省出身の26才農婦で、2006年1月10日に発症し、その後肺炎で入院し、現在も安定した状態で治療中である。中国におけるほかの多くの症例と同様に、この症例は家禽における最近のアウトブレイクが公式に報告されていない地域において発生した。中国における検査確定症例11例のうち、7例が死亡している。症例は7つの省および地域で発生している(Anhui, Fujian, Guangxi, Jiangxi, Hunan, LiaoningおよびSichuan)。散発的なヒト症例が継続しておこっていることは、少なくとも中国の特定の場所でウイルスがトリの間で循環していることを示している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月13日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4): 中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告している。症例は中国南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。家庭で飼育している家禽の処分後に発症した。症例は2月4日に死亡した。これまでに中国は12例の検査確定症例を報告しており、そのうち8例が死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例2例(13例目、14例目)を報告した。両症例とも重体である。1例目は中国東部のZhejiang省の9才の女兒で、2006年2月10日に発症した。隣接するAnhui省の親戚を訪問した後に発症した。2004年以来、Zhejiang省において動物のアウトブレイクは報告されていない。2例目はAnhui省の26才の農婦で、病気の家禽と接触した後に、2006年2月11日に発症した。地域の農業当局が女性の近所で死亡した家禽からの検体においてH5N1ウイルスが単離されたことを報告している。これまでに、中国は検査確定症例14例を報告しており、そのうち8例が死亡している。H5N1ウイルスは今や中国の多くの地域の鳥類に蔓延していると考えられる。WHOは中国当局と協力し、トリインフルエンザに対する一般市民の意識を向上させ、人々にアウトブレイクの報告を促し、死亡した、あるいは病気の鳥類との接触を避けるように人々に警告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update7): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における10例目の死亡症例を報告した。症例は中国東部のZhejiang省の9才の女兒で、2006年2月10日に発症し3月6日に死亡した。この症例は2006年2月27日に中国当局によりすでに告知されており、その際には症例は重体であるとされていた(13例目)。現在のところ中国は検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症症例15例を報告しており、そのうち10例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月6日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update6): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例1例を報告した。症例は中国南部のGuangdong省の32才の男性で、2006年2月22日に発熱を発症し、肺炎となった。症状は急速に悪化し、3月2日に死亡した。男性は無職であった。2004年以来、Guangdong省において家禽におけるアウトブレイクは報告されていない。これまでに、中国は検査確定症例15例を報告しており、そのうち9例が死亡している。2例が依然として重体にある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月24日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update8):中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における16例目の症例を報告した。症例は死亡症例で、29才の出稼ぎ労働者女性で、2006年3月15日に上海の病院に肺炎の症状により入院し、21日に死亡した。この症例は上海において報告された初めての症例である。この症例の感染源は調査中で、上海地区では2004年2月以来家禽のアウトブレイクは報告されていない。中国当局によると、女性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例16例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
115	2006/4/26	60115	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	アメリカ、オーストラリア、カナダ	製造工程	有	無	有	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(39) 2005年9月30日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 18。今回報告終了日-2005年9月28日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Alamosa郡, Delta郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日~2005年9月16日):ウマにおいて疑い例10例, 症例1例, ウシにおいて疑い例67例, 症例2例。-Montana州Carbon郡, Stillwater郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年8月28日~2005年9月14日):ウマにおいて疑い例9例, 症例6例, ヤギにおいて疑い例2例。-Wyoming州Big Horn郡, Fremont郡, Goshen郡, Hot Springs郡, Park郡, Platte郡, Sublette郡, Washakie郡の農場(15件)(アウトブレイクの開始日2005年8月21日~2005年9月15日):ウマにおいて疑い例84例, 症例15例, ウシにおいて疑い例855例, 症例7例, ヤギにおいて疑い例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(40) 2005年10月7日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 19。今回報告終了日-2005年10月2日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Delta郡, Mesa郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月5日, 2005年9月19日):ウマにおいて疑い例1例, 症例1例, ウシにおいて疑い例30例, 症例1例-IIdaho州Bear Lake郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月16日):ウマにおいて疑い例14例, 症例2例, ウシにおいて疑い例360例-Utah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月9日):ウマにおいて疑い例7例, 症例1例-Wyoming州Bighorn郡, Carbon郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡, Platte郡の農場(13件)(アウトブレイクの開始日2005年9月12日~2005年9月24日):ウマにおいて疑い例393例, 症例15例, ウシにおいて疑い例2100例, 症例5例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED 2005年10月7日	2005年10月4日、ニューヨーク州Plum Islandの外來性動物疾患診断研究所は、ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある施設で飼育されていたウシ3頭で、初の水疱性口内炎New Jersey株(VS-NJ)感染症例を確認した。VS-NJウイルスは、発病した成牛3頭からの検体から分離された。これらの個体は、2005年ネブラスカ州で最初の水疱性口内炎症例である。加えて10月5日に、アイオワ州Amesの国立獣医学研究所は、ネブラスカ州Scotts Bluff郡にある別の施設で飼育されていたウマについて、ウイルス分離により水疱性口内炎と診断確定した。問題の2施設は同じScotts Bluff郡内にあるが、それぞれは約24マイル離れている。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(41) 2005年10月14日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 20。今回報告終了日-2005年10月9日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイクの詳細-Colorado州Mesa郡, Montezuma郡, Ouray郡の農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年9月18日, 2005年9月25日):ウマにおいて疑い例9例, 症例5例, ウシにおいて疑い例120例, 症例1例。Colorado州Big Horn郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月25日, 2005年9月28日):ウマにおいて疑い例48例, 症例5例。-Nebraska州Scotts Bluff郡の農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年9月29日, 2005年9月30日):ウマにおいて疑い例6例, 症例1例, ウシにおいて疑い例61例, 症例3例。-Utah州Duchesne郡の農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年9月23日):ウシにおいて疑い例8例, 症例3例。-Wyoming州Bighorn郡, Converse郡, Fremont郡, Goshen郡の農場(11件)(アウトブレイクの開始日2005年8月15日~2005年10月1日):ウマにおいて疑い例83例, 症例11例, ウシにおいて疑い例208例, 症例4例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(42) 2005年10月21日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 21。今回報告終了日-2005年10月16日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク-Wyoming州Bighorn郡Lovellの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月9日):ウマにおいて疑い例2例, 症例2例。-Wyoming州Carbon郡Encampmentの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月4日):ウマにおいて疑い例5例, 症例1例。-Wyoming州Fremont郡Rivertonの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月29日):ウマにおいて疑い例3例, 症例1例。-Wyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月29日):ウシにおいて疑い例100例, 症例1例。-Wyoming州Goshen郡Torringtonの農場(アウトブレイクの開始日2005年9月30日):ウシにおいて疑い例37例, 症例2例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(43) 2005年10月28日	米国における水疱性口内炎のFollow-up report No. 22: 今回報告終了日-2005年10月23日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。アウトブレイクの初回確定日-2005年4月27日。アウトブレイクの開始日-2005年4月16日。新規アウトブレイク-COLORADO州Delta郡Delta, Mesa郡Grand Junction, Montezuma郡Cortezの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月1日, 2005年10月5日): ウマにおいて疑い例7例, 症例2例, ウシにおいて疑い例55例, 症例1例。-Idaho州Caribou郡Graceの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月9日): ウマにおいて疑い例9例, 症例4例 -Montana州Big Horn郡St. Xavierの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月6日): ウマにおいて疑い例2例, ウシにおいて疑い例27例, 症例4例, ヒツジにおいて疑い例37例, ヤギにおいて疑い例1例。-Utah州Summit郡Oakleyの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月8日): ウマにおいて疑い例5例, 症例1例, ウシにおいて疑い例12例。-Wyoming州Big Horn郡Hyattville, Campbell郡Gillette, Carbon郡Encampment, Fremont郡のPavillion農場(4件)(アウトブレイクの開始日2005年9月24日~2005年10月10日): ウマにおいて疑い例23例, 症例4例, ウシにおいて疑い例350例, 症例2例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 23: 今回報告終了日-2005年10月30日。病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク-COLORADO州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日): ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。-Nebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日): ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。-Utah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日): ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, ブタにおいて疑い例12例。-Wyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日~2005年10月16日): ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例, ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスク、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するもの、などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。このウシは国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告では、米国産牛肉は非常に安全であることが強調された。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE: (米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時: 2004年11月, および確定された日時: 2005年6月) 今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイクの開始日2006年2月27日): ウシにおいて疑い例50例, 症例1例, 処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例である。
116	2006/4/26	60116	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株	スイス	有効成分	無	無	有			
117	2006/4/26	60117	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	英国、米国、カナダ、デンマーク	製造工程	無	無	有			
118	2006/4/26	60118	セローノ・ジャパン株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	C127細胞株	マウス細胞	スイス	製造工程	無	無	有			
119	2006/4/26	60119	日本赤十字社	人血小板濃厚液	人血小板濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラール陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月~9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴はない。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミューールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血に関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルティニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でいる。
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療中のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBe抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるベインリックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
120	2006/4/26	60120	日本赤十字社	新鮮凍結人血漿	新鮮凍結人血漿	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラール陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。バルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的関連性は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴はない。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もない。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイパー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrmp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイパーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイパーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイパーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイパーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることを示された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうことを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクンゲンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBe抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症 (PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
121	2006/4/26	60121	日本赤十字社	洗浄人赤血球浮遊液	洗浄人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型 (HIV-1) が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux) では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems) ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories) に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラール陰性ブドウ球菌が原因とされた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴はない。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もない。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍以上上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイビー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミューズジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることを示された。
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	ProMED20060112 -0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428- 5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健康者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健康者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBe抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月～4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
122	2006/4/26	60122	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミューールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	ProMED20060112 -0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうことを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428- 5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
123	2006/4/26	60123	日本赤十字社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性があることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクンゲンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でいる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBe抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月～4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
124	2006/4/26	60124	日本赤十字社	白血球除去人赤血球浮遊液	白血球除去人赤血球浮遊液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症 (PT)	出典	概要
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラージェ陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月~9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴はない。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もない。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることを示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健康者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健康者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	カボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でいる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植をうけた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
125	2006/4/26	60125	日本赤十字社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイパー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存している約30人のうちの一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性があると通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉溝滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
126	2006/4/26	60126	財団法人 日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ミドリザル腎臓細胞	ミドリザルの腎臓	日本	製造工程	有	有	無	ウイルス感染	ProMED20060118-0162	インドのSullia地域Panja村で30人近くがサル熱(キヤサヌール森林病)に罹患したと疑われている。最近、約5頭のサルの死亡が報告されている。医師によると約16例がサル熱であり、そのうち6例が危篤である。
127	2006/4/26	60127	財団法人 日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア、 ニュー ジーランド	製造工程	有	有	無	BSE	ProMED20060217-0521	クロアチアでBSEを疑われるウシ(5歳)が発見された。確定されれば、同国で初めての狂牛病例であり、世界で23番目のBSE感染国となる。
128	2006/4/26	60128	財団法人 日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシの乳	ニュー ジーランド	添加物	有	有	無	BSE	ProMED20060217-0521	クロアチアでBSEを疑われるウシ(5歳)が発見された。確定されれば、同国で初めての狂牛病例であり、世界で23番目のBSE感染国となる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
129	2006/4/26	60129	財団法人日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ、カナダ	製造工程	無	有	無			
130	2006/4/26	60130	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼI	ウシ膵臓	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
131	2006/4/26	60131	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	リボヌクレアーゼA	ウシ膵臓	アメリカ、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
132	2006/4/26	60132	大洋薬品工業株式会社	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1835-1841	野兔病の原因菌であるFrancisella tularensisの北米における分離株161について、遺伝学および地理的多様性パターンを調べた。遺伝学的には4つのグループに大別され、地理的分布に差が見られた。これらの分布は、特異的なベクター、野兔病の宿主などの地理的範囲と関連がある。
133	2006/4/26	60133	沢井製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
134	2006/4/26	60134	沢井製薬株式会社	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
135	2006/4/27	60135	高田製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	朝日新聞 2006年2月27日	インド洋のフランス領リュニオン(人口78万人)でチクンゲンヤが大流行している。16万人が感染し、1月末までに77人が死亡した。南西インド洋の他の国でも報告があり、フランス本土でも似た症状の患者約30人が発見された。
136	2006/4/27	60136	ZLBベリング株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	フィブリノゲン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
137	2006/4/27	60137	ZLBベリング株式会社	人免疫グロブリン	人免疫グロブリン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
138	2006/4/27	60138	ZLBベリング株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 人血液凝固第ⅩⅢ因子	人血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
139	2006/4/27	60139	ZLBベリング株式会社	抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
140	2006/4/27	60140	ZLBベリング株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	アンチトロンビン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	製造工程	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
141	2006/4/27	60141	ZLBベリング株式会社	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	トロンビン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
142	2006/4/28	60142	日本ビーシージー製造株式会社	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、 ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Rec 2005; 157: 206	6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurosci 2005; 25: 7944-7949	シカやヘラジカのプリオン病である慢性消耗病(CWD)のヒトへの伝播性をトランスジェニックマウスを用いて調べた。ヘラジカまたはヒトのPrPを発現するようにしたトランスジェニックマウスにヘラジカCWDプリオンを脳室内接種したところ、前者(シカ化マウス)は26例中25例が発病したが、後者(ヒト化マウス)は51例全てが発病しなかった。ヒトがシカのCWDに感染する危険性は極めて低いと思われる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 251-254	脳内接種により、げっ歯類に適合したBSEまたはvCJDに感染させたハムスターとマウスの骨格筋から、病原体プリオンが検出された。陽性の筋肉検体中のPrPTSE濃度は、脳検体中濃度の500から1000倍低かった。骨格筋のTSE関与のリスクをさらに評価する必要がある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New Zealand J Agricultural Research 2005; 48: 499-515	BSE、スクレイビーおよび慢性消耗病はニュージーランドには存在しないが、サーベイランスは、死後検体をイムノブロット法で検査することにより行われている。最近開発されたイムノブロット法(CDI)はTSEの株や亜型を区別でき、血液検体中での検出も可能かもしれない。増幅法(PCMA)は最小量を検出できる。
143	2006/4/28	60143	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
144	2006/4/28	60144	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase I	ウシの脾臓	製造中止	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
145	2006/4/28	60145	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase I	ウシの臍臓	製造中止	製造工程	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
146	2006/4/28	60146	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリプシン	ブタの臍臓	製造中止	製造工程	有	無	無	日本脳炎	第9回日本ワクチン学会学術集会/87	2004年度のヒトおよびブタにおける日本脳炎抗体保有状況を、ヒトで8都県約2000人、ブタで33都道府県約4000頭を対象に調査した。その結果、現在も日本に日本脳炎ウイルスが存在していることが示された。
												ロタウイルス陽性	第53回日本ウイルス学会学術集会/261	2003年11月から2004年10月に岡山市内のと畜場で採取された成豚の盲腸便について、C群ロタウイルス(CRV)の有無をnested PCR法により検討した。その結果、10検体(1.5%)がCRV陽性であった。またPCR産物の塩基配列を解析したところ、Cowden株に近縁なタイプであった。
147	2006/4/28	60147	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止	製造工程	無	無	無			
148	2006/4/28	60148	デンカ生研株式会社	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	第53回日本ウイルス学会学術集会 338	国内で確認されたBSE牛3例の脳および全身諸臓器における異常型プリオン蛋白質の分布を、免疫組織化学法およびウエスタンブロット(WB)法により調べた。延髄、視床、小脳、前頭葉、後頭葉、脊髄、背根神経節、回腸神経叢などに検出されたが、局所リンパ節、扁桃では検出されなかった。
149	2006/5/1	60149	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	プロテインC	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
150	2006/5/1	60150	財団法人化学及血清療法研究所	フィブリノゲン第ⅩⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺臓	ウルグアイ	有効成分	無	無	無			
151	2006/5/1	60151	財団法人化学及血清療法研究所	ボルヒール 乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅹ因子 乾燥スルホ化人免疫グロブリン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	* 有効成分 * 以外: 添加物	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
152	2006/5/1	60152	財団法人化学及血清療法研究所	①フィブリノゲン第ⅩⅢ因子 ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③トロンビン	トロンビン	ヒト血液	日本	①③有効成分 ②製造工程	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
153	2006/5/1	60153	財団法人化学及血清療法研究所	フィブリノゲン第ⅩⅢ因子	人血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
154	2006/5/1	60154	財団法人化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅤⅢ因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3 (2005年10月5日)	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4例中3例に西ナイルウイルス(WNV)感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
155	2006/5/9	60155	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質(huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	無	感染	IASR 2005; 26: 306-307	2005年5月27日～6月7日までカンボジアに行き、6月10日～6月13日までハバロフスクに行っていた74歳男性が、帰国後の6月17日頃より咳、発熱などを呈し入院した。耳介の腫瘍より、マダニ刺咬症と考えられ、ライム病と診断された。病原体はBorrelia valaisiana近縁種であった。Borrelia valaisiana近縁種による感染例は世界で初めてである。
												鳥インフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
												細菌感染	IASR 2006; 27: 15-16	種々の抗菌薬が効かず、約2週間にわたり、胆管炎によると思われる発熱を繰り返した61歳の女性から、敗血症の起原因菌としてArcobacter butzleriを分離・同定した。日本で初めてのヒトからの検出例である。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性Clostridium butyricumが検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めてのC. butyricumによる乳児ボツリヌス症と考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
156	2006/5/9	60156	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												BSE	CRIENGLISH.com 2006年2月17日 http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm	クロアチア政府は2006年2月16日、国内初となるBSE例を検出したと発表した。
												BSE	REUTERS FOUNDATION 2006年3月3日 http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm	スウェーデンで最初のBSE感染牛(12歳)が発見された。3月3日にイギリスの研究所により確定診断された。スウェーデンは2001年から17万頭以上ウシを検査してきたが、今回が初めての狂牛病例である。
157	2006/5/9	60157	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	有	無	無	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	CRIENGLISH.com 2006年2月17日 http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm	クロアチア政府は2006年2月16日、国内初となるBSE例を検出したと発表した。
												BSE	REUTERS FOUNDATION 2006年3月3日 http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm	スウェーデンで最初のBSE感染牛(12歳)が発見された。3月3日にイギリスの研究所により確定診断された。スウェーデンは2001年から17万頭以上ウシを検査してきたが、今回が初めての狂牛病例である。
158	2006/5/9	60158	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	DNase I	ウシの臓器	アメリカ、ニュージーランド	製造工程	有	無	有	狂犬病	CDC 2005年12月23日 http://www.cdc.gov/ncidod/dvrd/rabies	2005年12月22日米国オクラホマ州保健局は、12月4日から19日に同州のある乳製品販売業者が販売した低温殺菌されていない牛乳やクリームを摂取したヒトは狂犬病ウイルスに暴露したおそれがあると発表した。翌日、米国疾病予防センターは1頭のウシが狂犬病であることを確認した。今まで牛乳に狂犬病ウイルスが存在したとの研究発表はなく、感染したウシの乳製品を摂取することによって狂犬病を発症したとの報告はない。しかし、同ウイルスがこの経路で伝播することは可能であるので、乳児や疾患を有するヒトについてはワクチン接種の相談をするよう勧告した。
												BSE	CRIENGLISH.com 2006年2月17日 http://en.chinabroadcast.cn/706/2006/02/17/167@51781.htm	クロアチア政府は2006年2月16日、国内初となるBSE例を検出したと発表した。
												BSE	REUTERS FOUNDATION 2006年3月3日 http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L03728610.htm	スウェーデンで最初のBSE感染牛(12歳)が発見された。3月3日にイギリスの研究所により確定診断された。スウェーデンは2001年から17万頭以上ウシを検査してきたが、今回が初めての狂牛病例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
159	2006/5/9	60159	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
160	2006/5/9	60160	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
161	2006/5/9	60161	明治乳業株式会社	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	トリプシン	ブタの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	無			
162	2006/5/8	60162	メルスモン製薬株式会社	胎盤絨毛分解物の水溶性物質	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			
163	2006/5/10	60163	大洋薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_27.HTM#Sec10	ブラジルにおけるブタの口蹄疫について、2005年12月7日から22日には Mato Grosso do Sul州で疑い例62が発生した。2005年12月23日から2006年1月6日にはParana州での発生が報告された。2006年1月7日から1月18日には新たなアウトブレイクは報告されていないが、両州では引き続き警戒態勢がとられている。
164	2006/5/10	60164	大洋薬品工業株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE http://www.oie.int/eng/info/hebdo/AIS_27.HTM#Sec10	ブラジルにおけるブタの口蹄疫について、2005年12月7日から22日には Mato Grosso do Sul州で疑い例62が発生した。2005年12月23日から2006年1月6日にはParana州での発生が報告された。2006年1月7日から1月18日には新たなアウトブレイクは報告されていないが、両州では引き続き警戒態勢がとられている。
165	2006/5/10	60165	東和薬品株式会社	ウリナスタチンの注射液	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	CDC/MMWR 2005; 54(45):1153-1155	2003年11月から2004年5月に北アメリカの港発のクルーズ船で旅行したヒト(940万人以上)の中で、8人がレジオネラ症を発症し、うち2人が死亡したとCDCに報告された。患者8例の平均年齢は55.8歳(23-76歳)で、5つの異なるクルーズ船に乗船し、2例は同じ船旅であった。どの症例についても感染源を同定することはできなかった。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(49): 1253-1256	2005年1月1日から12月1日に、米国42州の596郡からヒトにおける西ナイルウイルス感染2744例が報告された。うち1165例がWNV神経侵襲病(WNND)、1434例が西ナイル熱、145例が非特定であった。89例が死亡例であった。WNNDはサウスダコタなど中部で発生率が高い。トリでの死亡例は5204例、ウマでの感染例は1072例などが報告されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	CDC/MMWR 2005; 54(49); 1256-1259	2005年10月2日から12月3日の米国におけるインフルエンザ活動性は低レベルであった。20336検体中173例(0.9%)が陽性であったが、H5N1型トリインフルエンザ症例は米国では確認されていない。
166	2006/5/11	60166	あすか製薬株式会社	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。
												鳥インフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
												鳥インフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
167	2006/5/11	60167	あすか製薬株式会社	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	The Australian online 2005年10月20日 http://www.theaustralian.news.co.au/common/story_page	インドネシアで、感染症病院の医師が、男性1名とその息子1名、ならびに幼児1名がトリインフルエンザ感染の疑いがあると発表した。同国でのトリインフルエンザによる死亡例は公式には3例であるが、H5N1ウイルスによると疑われる死亡例は、少なくともさらに6例はいる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO 2005年11月17日 http://www.who.int/csr/don/2005_11_17/en/	中国衛生省によると、中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例(9歳少年)は回復したが、もう1例(24歳女性)は死亡した。インドネシア衛生省は、さらに2例のH5N1型トリインフルエンザ感染者を確定した。2例とも危篤である。
												鳥インフルエンザ	WHO 2006年1月5日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_05/en/	トルコ保健省は、H5型ウイルスによるトリインフルエンザに感染した初めてのヒト2例を確認した。14歳の少年と、その姉である15歳の少女で、両症例とも死亡した。当局によると1月1日以来、この2例を含め11例の患者が同様の症状で入院している。当局の要請により、WHOなどからの専門家チームがトルコに派遣された。
												鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
168	2006/5/17	60168	サノフィ・アベンティス株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 16(6) 2006年2月9日 SCIEH Spotlight 2006年2月9日 HPS Weekly Report 40(6) 2006年2月14日 Public Agency of Canada 2006年2月10日 ProMED20060210-0040	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。患者は現在生存中である。
169	2006/5/18	60169	ワイス株式会社	ポリフィマーナトリウム	ポリフィマーナトリウム	ブタ血液	オランダ	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
170	2006/5/19	60170	持田製薬株式会社	ウリナスチン	ウリナスチン	ヒト尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日 http://www.who.int/csr/don/2006_01_19/en/index.html	中国衛生省はH5N1型トリインフルエンザウイルスによるヒト感染例をさらに1例確定した。この患者は四川省在住の35歳女性で、家禽選別者として働いていたが、発症9日目に死亡した。この症例は中国における9例目の確定診断例で、そのうち6例が死亡している。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性Clostridium butyricumが検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めてのC. butyricumによる乳児ボツリヌス症と考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
171	2006/5/19	60171	三菱ウェルファーマ株式会社	肺サーファクタント製剤	サーファクタント	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	ProMED20060428-0070	世界各国のBSE症例最新状況、2006年4月24日。世界各国で2001年～2005年に確定診断されたBSE症例数(OIE2006年4月24日更新統計)。2005年の1年間では大部分のBSE感染国で発生率は低下した。チェコ共和国、日本、ポーランドでは若干症例数が増加した。
172	2006/5/19	60172	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無			
173	2006/5/23	60173	セロー・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(44) 2005年10月30日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 23:今回報告終了日—2005年10月30日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Crawford, Mesa郡Grand Junctionの農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月17日, 2005年10月28日):ウシにおいて疑い例31例, 症例2例, ウマにおいて疑い例10例, 症例1例。—Nebraska州Scotts Bluff郡Lymanの農場(アウトブレイクの開始日2005年10月12日):ウシにおいて疑い例16例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例251例。—Utah州Box Elder郡Park Valleyの農場, Duchesne郡Bluebell農場(2件)(アウトブレイクの開始日2005年10月20日, 2005年10月18日):ウマにおいて疑い例23例, 症例8例, ウシにおいて疑い例3例, ブタにおいて疑い例12例。—Wyoming州Big Horn郡Burlington, Carbon郡Encampment, Sweetwater郡McKinnenの農場(3件)(アウトブレイクの開始日2005年10月12日～2005年10月16日):ウマにおいて疑い例58例, 症例2例, ウシにおいて疑い例470例, 症例8例。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(46) 2005年11月18日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 24: 今回報告終了日—2005年11月13日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Eagle郡Burns, Garfield郡Rifle, Mesa郡Collbran, De Beque, Grand Junction, Montezuma郡Dolores, Ouray郡Ridgewayの農場(8件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日, 10月21日, 10月22日, 10月25日, 10月27日, 10月30日): ウシにおいて疑い例719例, 症例4例, ウマにおいて疑い例43例, 症例5例。—Montana州Big Horn郡Hardinの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月5日): ウシにおいて疑い例200例, 症例4例。—Wyoming州Natrona郡Casperの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月30日): ウマにおいて疑い例10例, 症例2例。—Wyoming州Park郡Powellの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月7日): ウシにおいて疑い例100例, 症例5例, ウマにおいて疑い例1例, 症例0例。—Wyoming州Sweetwater郡McKinnenの農場(1件)(アウトブレイクの開始日2005年10月10日): ウシにおいて疑い例500例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 18(49) 2005年12月9日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 25: 今回報告終了日—2005年12月4日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例5例, 症例1例。—Colorado州Montrose郡Olatheの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月15日): ウマにおいて疑い例3例, ウシにおいて疑い例10例, 症例1例。—Wyoming州Johnson郡Kayceeの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月1日): ウマにおいて疑い例6例, ウシにおいて疑い例18例, 症例1例, ヒツジにおいて疑い例4例。—Wyoming州Natrona郡Evansvilleの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月6日): ウシにおいて疑い例47例, 症例3例。
												ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(2) 2006年1月12日	米国における水疱性口内炎—Follow-up report No. 27: 今回報告終了日—2005年12月31日。病因の同定—水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey。新規アウトブレイク—Colorado州Delta郡Deltaの農場(アウトブレイクの開始日2005年11月14日): ウマにおいて疑い例4例, ウシにおいて疑い例222例, 症例3例。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法によりアラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
												BSE	FDA Statement 2006年3月13日	BSEの陽性の検査結果についての米国農務省(USDA)の発表に関する米FDAの声明。2006年3月13日の米国農務省(USDA)によるBSE陽性ウシの発見確定を受け、FDAは連邦当局および州当局と共同で、このウシが摂取した飼料の由来を調査している。USDAはこのウシが飼料もしくはヒトの食糧供給に入っていないことも確認したこと、最近FDAはヒトの食品および化粧品におけるウシの特定部分の使用を禁止する予防策を追加したことなどについて記載されている。
												BSE	OIE Disease Information 19(11) 2006年3月16日	米国におけるBSE:(米国における前回のBSEのアウトブレイクがOIEに報告された日時:2004年11月、および確定された日時:2005年6月)今回報告日-2006年3月13日。アウトブレイクの初回確定日-2006年3月13日。アウトブレイクの開始日-2006年2月27日。アウトブレイクの詳細-Alabama州の農場(アウトブレイク開始日2006年2月27日):ウシにおいて疑い例50例、症例1例、処分1例。感染群-約50頭の肉用ウシおよび子ウシの群の肉用ウシ1頭(10才以上)。アウトブレイクの原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。その他の詳細/コメント-米国において報告されたBSEの2例目の確定例である。
												BSE	カナダ Public Health Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例を確認した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスクとは?、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか?、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するものは?などが記載されている。
												BSE	ProMED20060124-0040	カナダ食品監視局(CFIA)は1月23日、Albertaで産まれ育った6才雑種雌牛が狂牛病であることを確認した。当該牛のいかなる部分も食品や他の動物の餌にはなっていない。この出来事は国家サーベイランスプログラムにより発見された。同プログラムにより2003年の第1例以来87000頭以上の牛が検査された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060417-0040	カナダ食品検査局(CFIA)によると、ブリティッシュコロンビア州で飼育されていたウシ1頭で、BSEが診断確定された。今回の症例確認はカナダ産牛肉の安全性に影響しない。
												BSE	ProMED20060430-0070	カナダでBSE感染ウシと一緒に飼育されていた15頭のウシが米国に輸出された。米国DOAはこのうち1頭の所在を確認した。他の14頭の所在は確認中である。
174	2006/5/23	60174	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
175	2006/5/23	60175	セローノ・ジャパン株式会社	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED20051106-0080	中国(香港)の健康保護センターは、50才女性の新たなデング熱輸入患者を確認したことを受けて、市民にデング熱の感染予防を呼びかけている。女性患者は、10月15日に発症した際、バングラデシュ滞在中であった。2005年の香港でのデング熱患者数は23名となり、全例が輸入患者である。
												デング熱	ProMED20060119-0100	中国(香港)の健康保護センターは、2006年、2例目のデング熱輸入患者を確認した。症例は22才の男性で、最近インドネシアに旅行している。
												デング熱	ProMED20060128-0020	中国(香港)の健康保護センター当局は、Siu Sai Wan在住の29才女性のデング熱感染を確認したが、今回の患者発生により、2006年の合計患者数は3名となった。全て輸入例である。患者は、2005年12月21日から2006年1月1日までインドネシアを旅行した後、1月3日に発症した。
												デング熱	ProMED20060305-0130	香港で、1月27日から30日にタイに滞在した48才の女性が、2月4日にデング熱を発症、9日に入院、15日に退院した。2006年の患者は4例で、全て輸入例である。
												デング熱	ProMED20060416-0010	香港で、25才男性のデング熱輸入例が確認された。この患者はタイから帰国後2006年3月29日に発病し、6日後に入院した。この患者は回復しすでに退院した。この患者は2006年での8人目の輸入デング熱患者である。この患者の25才女性の同行者は、昨日デング熱感染が確認された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED20060422-0090	香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は、25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。この患者は、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛の症状で4月7日に来院した。この患者は1月28日から4月7日までインドネシアを旅行していた。
												ウイルス感染	ProMED20060402-0040	ホンコンで初のチクングンヤ患者の診断がなされた。モーリシャスの輸入例にほぼ間違いない。この患者は66才中国人男性で、親戚を訪問するため1週間モーリシャスに滞在し、帰国2日後の3月24日にプリンスオブウェールズ病院を受診した。患者は2日前から発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹で発病していた。この患者はモーリシャスの辺地の親戚を訪問し、蚊に刺された。鑑別診断はデング熱であったが、ProMED情報によりチクングンヤが疑われ、検査を実施した。第2病日の検体でPCR陽性であり、またPHLC(Public Health Laboratory Centre)でも確認された。デングウイルスはIgM陰性、IgG陰性であった。
												ウイルス感染	ProMED20060414-0010	中国北部の高校で、学生1名が未確認のウイルス性疾患により死亡し、数十名が高熱で入院したため、学校が閉鎖されると4月12日国営メディアが報じた。北京タイムズによると、医療当局は陝西省での流行がトリインフルエンザではないとする一方で、ウイルスの特定に努力を続けている。この疾患は、3月末にチーシャン郡(Qishan county)の19才の学生が高熱を発したことで明らかとなった。「現在のところ、トリインフルエンザや新型肺炎の可能性は除外されたが、この疾患の感染性は強まっており、正確な原因と感染経路は特定されていない」と、匿名の医療関係者が述べたとのことである。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	トリインフルエンザ(update 41): 中国衛生省は同国における初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染症ヒト症例2例を確認した。1例目はHunan省の9才の少年で、2005年10月17日に呼吸器症状により入院し、完全に回復し、帰宅している。2例目はAnhui省の家禽農場労働者の24才女性で、2005年11月1日に発症、11月7日に重度の肺炎により入院、11月10日に死亡した。さらに、ヒト疑い症例2例がHunan省において調査されている。中国におけるヒト症例に対するサーベイランスは、家禽におけ家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザの再発を受け、先月から強化された2005年10月19日以来、中国は6省におけるアウトブレイク11件を報告している。(ヒト)確定例がみられたHunan省およびAnhui省は、最近感染が起った省に含まれている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月24日	トリインフルエンザ(update 42): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(3例目)を確認した。死亡した症例はAnhui省において農業従事者として労働していた35才の女性で、2005年11月11日に発症、11月15日に入院そして11月22日に死亡した。この症例は中国における3例目の検査確定症例(2例が死亡)で、Anhui省においては2例目である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月7日	トリインフルエンザ(update 46): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(4例目)を確認した。症例は、Guangxi省の10才の少女で、2005年11月23日に発熱および咳の症状を発症し、その後肺炎となり、依然として入院中である。地元の保健当局は暴露原因を確定するため、および患者の住んでいた村および近隣地域における追加症例の搜索の為に調査を開始した。現在のところ、インフルエンザ様疾患の追加症例は明らかとなっていない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月9日	トリインフルエンザ(update 47): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルス感染症の新規ヒト症例1例(5例目)を確認した。症例は中国北東部のLiaoning省の31才の農婦で、2005年10月30日に発症し、その後重症肺炎と急性呼吸窮迫により病院の集中治療室に収容された。症例は回復し、11月29日に退院した。この症例の初期検査はH5ウイルスサブタイプに対する感染は陰性であったが、microneutralization法による抗体検査により、発症後期に確定診断された。2005年10月末より、Liaoning省では家禽における高病原性H5N1トリインフルエンザのアウトブレイクが数回報告されている。調査の結果、この症例の感染は、発病した家禽との直接的暴露との関連が示された。農業当局は同省での家禽からH5N1ウイルスを検出している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月16日	トリインフルエンザ(update 49): 中国衛生省はさらに1例のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は南東部のJiangxi省在住の35才男性である。男性は12月4日に熱の症状を呈し、その後肺炎になった。現在も入院中であり、集中ケアを受けている。農業当局は患者の住居の近くにいたアヒルにおいてH5型ウイルスの存在を確認している。この症例は中国における第6番目の検査確定症例である。そのうち2例が死亡している。現在までに、中国は5つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi)から症例を報告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年12月30日	トリインフルエンザ(update 51): 中国衛生省は中国本土においてH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症1例を確認した。症例は南東部のFujian省在住の41才女性で、2005年12月6日に熱とそれに続く肺炎の症状を発症し、2日後に入院し、12月21日に死亡した。12月13日、患者からの検体に関する初期検査はH5N1陰性であったが、12月23日の更なる検査で陽性を示した。患者からウイルスも分離された。医学的監視下に置かれている密接な接触者はいかなる症状も示していないと衛生当局は報告している。農業当局は現在までに、患者の住居や仕事場の周辺の家畜においてH5ウイルスサブタイプが存在を確認できていない。調査員は発症する前の、患者と家畜の直接的な接触を確認できていない。この症例は中国における7例目の検査確定症例で、これらの症例のうち3例(本症例を含む)が死亡している。現在までに、中国は6つの省・自治区(Hunan, Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian)から症例を報告している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月10日	中国におけるトリインフルエンザの状況: 中国衛生省は中国で8例目のH5N1トリインフルエンザウイルス感染症のヒト症例を確認した。症例は南部のHunan省出身の6才の男児で、2005年12月24日に熱と肺炎を発症し、現在入院中で症状は安定している。中国当局は以前に公表された症例2例がその後死亡したことも報告した。症例は12月7日に報告されたGuangxi自治区の10才の少女と12月16日に報告されたJiangxi省の35才の男性である。中国における確定症例8例のうち現在5例が死亡している。新規確定症例の初期調査により、家庭で飼育していた家畜の死亡が暴露原因である可能性があると示唆されたが、この地域における家畜のアウトブレイクは公式には報告されていない。密接な接触者は医学的監視下におかれているが、現在のところ、症状を示しているヒトはいない。この症例はHunan省での2例目の症例である。先に報告された同省の症例は、2005年11月中旬に中国で最初に報告された2例のうちの1例であるが、今回の症例とは約300km離れたところに住んでいる。Hunan省に加え、H5N1感染症ヒト症例を報告している省・自治区はAnhui, Guangxi, Liaoning, JiangxiおよびFujianである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規ヒト感染症例1例を確認した。症例は中国中南部のSichuan省在住の35才女性で、家禽の屠殺に従事していた。症例は2006年1月3日に発症、1月10日に発熱と肺炎の症状のため入院し、1月11日に死亡した。症例が屠殺作業中に感染したのか、住んでいる村において感染した鳥類への直接的暴露の結果として感染したのかどうかを決定するための詳細調査が実施されている。症例は、密接した住居に8組の家族が居住している住宅に住んでいた。これらの家族メンバーおよび他の密接な接触者が医学的監視下に置かれている。インフルエンザ様疾病の症状は現在のところ報告されていない。この新規確定症例は中国におけるこの症例は中国における9例目の検査確定症例で、これらの症例のうち6例が死亡している。7つの省・自治区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, HunanおよびSichuan)において症例が発生している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月25日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2): 中国衛生省は、同国で10例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例を確認した。症例は、南中央部のSichuan省、Chengdu市の29才女性で、2006年1月12日に発熱し、肺炎症状で入院したが、急速に悪化し、23日に死亡した。感染源として病気のトリへ暴露した可能性に関する情報は現在のところないが、調査が実施中である。これは今年(2006年)に中国において報告された2例目の症例(いずれもSichuan省から)である。このSichuan省の2症例は、約150km離れた異なる県において発生していた。Sichuan省の他の地方では、家禽におけるH5N1アウトブレイクが、2005年12月下旬に開始していた。2症例が居住する地域におけるアウトブレイクは確認されていない。中国において確認された10例のうち、7例が死亡している。7つの省および地区(Anhui, Guangxi, Liaoning, Jiangxi, Fujian, Hunan, およびSichuan)において症例が発生している。うち2省では家禽におけるアウトブレイクは公式に報告されていない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3): 中国衛生省は同国で11例目となる検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症例1例を報告している。症例は中国南東部のFujian省出身の26才農婦で、2006年1月10日に発症し、その後肺炎で入院し、現在も安定した状態で治療中である。中国におけるほかの多くの症例と同様に、この症例は家禽における最近のアウトブレイクが公式に報告されていない地域において発生した。中国における検査確定症例11例のうち、7例が死亡している。症例は7つの省および地域で発生している(Anhui, Fujian, Guangxi, Jiangxi, Hunan, LiaoningおよびSichuan)。散発的なヒト症例が継続しておこっていることは、少なくとも中国の特定の場所でウイルスがトリの間で循環していることを示している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月13日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4): 中国衛生省は同国で12例目となるH5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症の検査確定例1例を報告している。症例は中国南中央部のHunan省出身の20才の農業従事者の女性で、2006年1月27日に発症し、その後重度の肺炎で入院した。家庭で飼育している家禽の処分後に発症した。症例は2月4日に死亡した。これまでに中国は12例の検査確定症例を報告しており、そのうち8例が死亡した。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update5): 中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例2例(13例目、14例目)を報告した。両症例とも重症である。1例目は中国東部のZhejiang省の9才の女児で、2006年2月10日に発症した。隣接するAnhui省の親戚を訪問した後に発症した。2004年以来、Zhejiang省において動物のアウトブレイクは報告されていない。2例目はAnhui省の26才の農婦で、病気の家禽と接触した後に、2006年2月11日に発症した。地域の農業当局が女性の近所で死亡した家禽からの検体においてH5N1ウイルスが単離されたことを報告している。これまでに、中国は検査確定症例14例を報告しており、そのうち8例が死亡している。H5N1ウイルスは今や中国の多くの地域の鳥類に蔓延していると考えられる。WHOは中国当局と協力し、トリインフルエンザに対する一般市民の意識を向上させ、人々にアウトブレイクの報告を促し、死亡した、あるいは病気の鳥類との接触を避けるように人々に警告している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update7)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における10例目の死亡症例を報告した。症例は中国東部のZhejiang省の9才の女児で、2006年2月10日に発症し3月6日に死亡した。この症例は2006年2月27日に中国当局によりすでに告知されており、その際には症例は重体であるとされていた(13例目)。現在のところ中国は検査確定H5N1トリインフルエンザウイルスヒト感染症症例15例を報告しており、そのうち10例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月6日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update6)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規検査確定ヒト感染症例1例を報告した。症例は中国南部のGuangdong省の32才の男性で、2006年2月22日に発熱を発症し、肺炎となった。症状は急速に悪化し、3月2日に死亡した。男性は無職であった。2004年以来、Guangdong省において家禽におけるアウトブレイクは報告されていない。これまでに、中国は検査確定症例15例を報告しており、そのうち9例が死亡している。2例が依然として重体にある。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月24日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update8)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における16例目の症例を報告した。症例は死亡症例で、29才の出稼ぎ労働者女性で、2006年3月15日に上海の病院に肺炎の症状により入院し、21日に死亡した。この症例は上海において報告された初めての症例である。この症例の感染源は調査中で、上海地区では2004年2月以来家禽のアウトブレイクは報告されていない。中国当局によると、女性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例16例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update9)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における17例目の症例を報告した。症例は、Hubei省Wuhan市の21才の出稼ぎ労働者男性で、2006年4月1日に発症し、重体で現在入院中である。男性の暴露源は調査中である。2005年11月以来、Hubei省において家禽のアウトブレイクは報告されていない。男性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例17例を報告しており、そのうち11例が死亡している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月21日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update10):中国衛生省は同国における12例目の死亡症例を通知した。死亡症例は以前に報告された症例で、Hubei省の21才男性である。症例は2006年4月19日に重症呼吸器疾患で死亡した。中国における検査確定症例17例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update11):中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で18例目のヒト感染症例を報告した。症例は南西部Sichuans省の8才の女児で、2006年4月16日に発熱および肺炎を発症し、入院したままである。衛生省によれば、初期調査により家禽の死亡が症例の自宅近くで最近発生したことが確認された。中国における検査確定症例18例のうち、12例が死亡している。
176	2006/5/23	60176	ゼローノ・ジャパン株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	ProMED20060225-0030	韓国保健省当局は、2003年末から2004年前半に、数人のヒトでのトリインフルエンザ感染があったことを確認した。と2006年2月24日に公表した。2003年12月から2004年3月までに、韓国の養鶏場400カ所近くでトリインフルエンザ感染が発生したが、これまでヒトでの感染の報告はなかった。血液検査により、数人の韓国人にトリインフルエンザに対する抗体が産生されていたことが示された。彼らは養鶏業者だが、韓国で家禽類でのトリインフルエンザ流行の際に、有意な症状を示さなかった。
177	2006/5/23	60177	株式会社ベネシス	乾燥人フィブリノゲン フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	①凝固性たん白質②精製フィブリノゲン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者から、ダニ媒介性キャサナル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まった Clostridium difficile の新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクンゲンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクンゲンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
178	2006/5/23	60178	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	非献血：米国、献血：日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
179	2006/5/23	60179	株式会社ベネシス	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体含有人免疫グロブリンG	人血液	米国	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人の Dengue 熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Votum des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
180	2006/5/23	60180	株式会社ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	血液凝固第Ⅲ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キヤサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガテフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関連していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
181	2006/5/23	60181	株式会社ベネシス	トロンピン フィブリノゲン加第ⅧⅢ因子	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Yomiuri Online 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウイルス感染症である西ナイル熱と診断されたことと発表した。発熱などの症状がみられたが、すでに回復している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Infect 2005; 51: 91-97	サウジアラビアAlkhumra地区で1995年に6人のデング熱のような患者から、ダニ媒介性キャサヌル森林熱ウイルスに非常に類似した新種のフラビウイルスが発見され、ALKV(Alkhumra virus)と命名された。サウジアラビアMakkahで2001年-03年にALKV疑い37例が確認され、そのうち20例からALKVが検出された。肝炎、出血兆候、脳炎などを伴い、致死率は25%であった。感染経路はヒツジやヤギの直接接触か蚊刺傷からの感染が考えられ、新たな人畜共通出血熱と考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイビー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイビーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
182	2006/5/23	60182	塩野義製薬株式会社	インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	リゾチーム	ニワトリ卵白	アメリカ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Nature 2006: 439: 248-249	トルコにおけるトリインフルエンザのヒトでの流行で、ウイルス検体を調査している科学者チームはウイルスの遺伝子配列に3ヶ所の変異を確認した。ヘムアグルチニン受容体蛋白の223位アミノ酸の置換、ポリメラーゼ蛋白の627位アミノ酸置換およびヘムアグルチニン蛋白153位アミノ酸変異である。前者はトリインフルエンザウイルスと宿主細胞表面受容体との結合に、ポリメラーゼ変異は複製に影響を与える。トルコ株は、ポリメラーゼ変異と受容体結合変異の両方が見られた初めての例であり、ウイルスをヒトに馴化させていると考えられる。
												鳥インフルエンザ	Weekly epidemiological record 2006; 81: 89-96	2005年9月から2006年1月の間に、中国、インドネシア、イラク、タイ、トルコ、ベトナムでの家禽における高病原性トリインフルエンザのアウトブレイクに関連して、ヒトでのインフルエンザA(H5N1)症例61例が発生した。2003年12月以来、計173例が7カ国で確定されている。WHOインフルエンザ流行準備レベルはPhase 3である。
183	2006/5/23	60183	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日後の65歳患者から採取した尿検体からWNV RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
184	2006/5/23	60184	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え)インターフェロンガンマー1a(遺伝子組換え)	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												BSE	USDA声明 2006年3月13日 http://www.aphis.usda.gov/newsroom/content/2006/03/bsestatement3-13-06_vs.shtml FDA声明 2006年3月13日 http://www.fda.gov/bbs/topics/NEWS/2006/NEW01333.html	米国アラバマ州で、2006年3月10日に、迅速スクリーニング試験でBSE疑い例とされたウシは、USDA研究所で行われた確定検査でBSE陽性であった。USDAは、このウシと同じ群れで生まれた子牛の所在の確認を行うこと、FDAと協力して飼料歴を確認すること、10歳を超えるウシであること、米国でのBSE発生率は極めて低いことなどの声明を発表した。FDAは現在採られているBSE対策を報道した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
185	2006/5/23	60185	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a (遺伝子組換え)	バクトトリポン	ウシ乳	オーストラリア、 ニュー ジーラン ド、アメリ カ	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Science 2005; 310: 324-326	慢性炎症性腎疾患が、感染性プリオンを尿中に排出する引き金になるか検討した。リンパ球性腎炎を有するスクレイピー感染マウスの尿蛋白を接種した非感染マウスは、スクレイピーを発症した。尿はプリオンの水平感染ベクターとなり、排泄臓器の炎症はプリオンの拡大に影響を及ぼす可能性が示唆された。
												BSE	USDA声明 2006 年3月13日 http://www.aphis.usda.gov/newsroom/content/2006/03/bsestatement3-13-06_vs.shtml FDA声明 2006年 3月13日 http://www.fda.gov/bbs/topics/NEWS/2006/NEW01333.html	米国アラバマ州で、2006年3月10日に、迅速スクリーニング試験でBSE疑い例とされたウシは、USDA研究所で行われた確定検査でBSE陽性であった。USDAは、このウシと同じ群れで生まれた子牛の所在の確認を行うこと、FDAと協力して飼料歴を確認すること、10歳を超えるウシであること、米国でのBSE発生率は極めて低いことなどの声明を発表した。FDAは現在採られているBSE対策を報道した。
186	2006/5/23	60186	塩野義製薬株式会社	テセロイキン(遺伝子組換え) インターフェロンガンマー1a (遺伝子組換え)	パングレアチン	ブタ臓臓	アメリカ、 カナダ	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	Clin Infect Dis 2006; 42: 14-20	米国アイオワ州で2002年から2004年に、ブタに接触する職業のヒトの血清検体を用いて、動物性インフルエンザウイルス感染について調べ、多変量比例オッズモデルを用いて、対照群(79例)と比較した。農夫群(111例)、獣医群(65例)、食肉処理労働者群(97例)の3群とも、ブタH1N1とH1N2ウイルスについて高い陽性率を示し、農夫群が最も高いオッズを示した。H3N2ウイルスについては3群とも対照群と有意差はなかった。ブタへの職業的暴露はブタインフルエンザウイルス感染の危険性を増大させることが明らかとなった。
187	2006/5/24	60187	ZLBベリング株式会社	乾燥pH4処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	ヒト血液	ドイツ	有効成分	有	有	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
188	2006/5/26	60188	日本製薬株式会社	人免疫グロブリン	免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで、献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカなどの生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー、ホルモンの喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、その血液検体からHEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日に、試行的HEV20プールNAT検査を行ったところ、295,442人中30人が陽性で、約1/10000の陽性率であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
189	2006/5/26	60189	日本製薬株式会社	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Release 2005/0404 2005年11月17日 http://www.dh.gov.uk/PublicationsAndStatistics/PressReleases/	英国で外科手術を介したvCJD伝播のリスクを低減させるため、通知活動の次なる段階が開始される。輸血を受けた約50例が追跡調査され、潜在的なvCJD暴露を通知される。これはvCJDキャリアからの血液を輸血され、vCJDを発症した患者が3例報告されたことによる予防措置である。
												HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えると予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで、献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカなどの生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー、ホルモンの喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、その血液検体からHEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日に、試行的HEV20プールの検査を行ったところ、295,442人中30人が陽性で、約1/10000の陽性率であった。
190	2006/5/29	60190	東レ株式会社	インターフェロンベータ	インターフェロンベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
191	2006/5/29	60191	東レ株式会社	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
192	2006/5/29	60192	東レ株式会社	インターフェロンベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー及びルクセンブルク	添加物	無	無	無			
193	2006/5/29	60193	東レ株式会社	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	無	無	無			
194	2006/5/29	60194	東レ株式会社	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ合衆国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
195	2006/5/29	60195	ワイス株式会社	エタナルセプト(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	不明	製造工程	無	無	無			
196	2006/5/30	60196	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	インターフェロン ガンマ-n1	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			
197	2006/5/30	60197	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	無	無	有			
198	2006/5/30	60198	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
199	2006/5/30	60199	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
200	2006/5/30	60200	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	抗IFN-γモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
201	2006/5/30	60201	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			
202	2006/5/30	60202	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
203	2006/5/30	60203	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
204	2006/5/30	60204	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
205	2006/5/30	60205	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
206	2006/5/30	60206	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
207	2006/06/01	60207	エーザイ	モンデプラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ベビーハムスターの腎臓	10数年前に樹立したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5N1に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はデンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
208	2006/06/01	60208	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はデンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
209	2006/06/01	60209	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
210	2006/06/01	60210	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
211	2006/06/01	60211	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテブラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
212	2006/06/01	60212	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ又はウルグアイ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
213	2006/06/02	60213	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグララーゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少であった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血歴の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存しているおよそ30人の一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPScが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健康者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健康者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクンゲンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジシマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でいる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連することが示唆された。
214	2006/06/05	60214	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
215	2006/06/14	60215	化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
216	2006/06/15	60216	ワイス	ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	無	無	無			
217	2006/06/15	60217	ワイス	ゲムツスマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトαグロブリン	ヒト血液	フィンランド、スウェーデン	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
218	2006/06/15	60218	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDC 2005年11月 18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出生していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3 月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
219	2006/06/15	60219	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラ リア、 ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDC 2005年11月 18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
220	2006/06/15	60220	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	加水分解カゼイン	ウシ乳	オーストラリア、 ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
221	2006/06/15	60221	ワイス	ゲムツスマブオソガマイシン (遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	ニュー ジーラ ンド、米 国	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2005年11月 18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
222	2006/06/15	60222	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
223	2006/06/15	60223	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、 ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
224	2006/06/15	60224	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来NSO細胞	マウス骨髄腫	不明	製造工程	無	無	無			
225	2006/06/19	60225	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Aspergillus fumigatus		有効成分	無	無	無			
226	2006/06/19	60226	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Alternaria kikuchiana		有効成分	無	無	無			
227	2006/06/19	60227	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Candida albicans		有効成分	無	無	無			
228	2006/06/19	60228	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Cladosporium cladosporioides		有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
229	2006/06/19	60229	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Penicillium luteum		有効成分	無	無	無			
230	2006/06/20	60230	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることを示された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうことを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存しているおおよそ30人の一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性があることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクンゲンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連することが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
231	2006/06/20	60231	日本赤十字社	人赤血球濃厚液	人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Technika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												レンサ球菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラールゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少があった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることを示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうことを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存しているおよそ30人の一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性あることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360～490日後に、脳抽出物を接種した群は230～280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP ^{Sc} 遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイビーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジシマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者をを看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症 (PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発生し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅班、6日目に発熱を発生し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連することが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血漿検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンブロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
232	2006/06/20	60232	日本赤十字社	人全血液	人全血液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												レンサ球菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラール陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少であった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症リステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症リステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5~6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がるが示された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存しているおよそ30人の一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイパーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクンゲンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジシマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者をを看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にもかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連することが示唆された。
												HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血漿検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンプロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
233	2006/06/20	60233	ベネシス	ウロキナーゼ注射剤	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカット州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まった Clostridium difficile の新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであり、バリンホモ接合体サブグループがvCJDに対して感受性があることが初めて示された。この遺伝子型のvCJD感染者は長い潜伏期間を有している可能性があり、この間に水平感染が供血または無症候期の感染者に使用された汚染手術用具のいずれかから起きる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMIは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。、VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。BSEからヒトへの感染は種の壁の存在によって制限を受けているが、vCJDのヒトからヒトへの感染は実質的に壁が低くなっているように思われる。さらに、コードン129の遺伝型に関係なく、輸血のようなルートによって、vCJDの2次感染が起こりやすい可能性がある。潜伏期間の長い疾患はこれらのモデルによって予測ができ、疾患の伝播拡大の危険性や有意な公衆衛生上の問題を示すであろう。
234	2006/06/20	60234	ベネシス	ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	破傷風抗毒素	人血液	米国	有効成分	有	無	無	寄生虫感染	Transfusion 2005; 45: 1804-1810	コネチカ州のバベシア流行地及び非流行地の血液ドナーそれぞれ1745例の血清をBabesia microti抗体について調べた。流行地の血清学的陽性血液ドナーは24例(1.4%)で、非流行地の陽性血液ドナー(6例、0.3%)より多かった。また、血清学的陽性の血液ドナー19例のうち10例(53%)がPCRによりBabesia microtiに陽性であった。輸血により本寄生虫血症が伝播するおそれがある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2005年11月17日	中国で初めて2例の高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)感染症例が確認された。1例は回復したが、もう1例は死亡した。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まったClostridium difficileの新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クワイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関連していたことが明らかになった。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クローイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであり、バリンホモ接合体サブグループがvCJDに対して感受性があることが初めて示された。この遺伝子型のvCJD感染者は長い潜伏期間を有している可能性があり、この間に水平感染が供血または無症候期の感染者に使用された汚染手術用具のいずれかから起きる可能性がある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。、VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。BSEからヒトへの感染は種の壁の存在によって制限を受けているが、vCJDのヒトからヒトへの感染は実質的に壁が低くなっているように思われる。さらに、コドン129の遺伝型に関係なく、輸血のようなルートによって、vCJDの2次感染が起こりやすい可能性がある。潜伏期間の長い疾患はこれらのモデルによって予測ができ、疾患の伝播拡大の危険性や有意な公衆衛生上の問題を示すであろう。
235	2006/06/20	60241	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	有	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
236	2006/06/21	60235	日本臓器製薬	フィブリノゲン加第XIII因子	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	不明(未発売)	製造工程	無	無	無			
237	2006/06/21	60236	日本臓器製薬	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
238	2006/06/21	60237	日本臓器製薬	フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	無	無	無			
239	2006/06/21	60238	日本臓器製薬	フィブリノゲン加第XIII因子	トロンビン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
240	2006/06/21	60239	日本臓器製薬	フィブリノゲン加第XIII因子	血液凝固第XIII因子	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
241	2006/06/21	60240	日本臓器製薬	フィブリノゲン加第XIII因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			
242	2006/06/22	60242	三菱ウェルファーマ	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)注射剤	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
												BSE	ProMED20060504-0040	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果に関する声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。
243	2006/06/22	60243	三菱ウェルファーマ	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)注射剤	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	米国	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
244	2006/06/23	60244	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラーゼ(遺伝子組換え)	イミグルセラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞	別紙1(原本参照)	有効成分	無	無	有			
245	2006/06/23	60245	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラーゼ(遺伝子組換え)	ポリゼリン	ウシ骨抽出物	米国	製造工程	無	無	有			
246	2006/06/23	60246	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ胎仔血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
247	2006/06/23	60247	ジェンザイム・ジャパン	イミグルセラーゼ(遺伝子組換え)	ドナー仔牛血清	ドナー仔牛血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
248	2006/06/23	60248	協和醗酵工業	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	米国	製造工程	無	無	無			
249	2006/06/26	60249	協和醗酵工業	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシの血液	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
												BSE	ProMED20060504-0040	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果に関する声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。
250	2006/06/27	60250	日本オルガノン	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
251	2006/06/27	60251	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血清	カナダ、米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
252	2006/06/27	60252	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	D-ガラクトース	ウシの乳汁	米国	製造工程	無	無	無			
253	2006/06/27	60253	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	パンクレアチン	ブタの膵臓由来	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
254	2006/06/27	60254	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	フェツイン	ウシの血清由来	カナダ、米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
255	2006/06/27	60255	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ラードウォーター	ブタ	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
256	2006/06/27	60256	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ペプシン	ブタの胃液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
257	2006/06/27	60257	全薬工業	リツキシマブ(遺伝子組換え)	ペプトン	ウマの脾臓、脛、ウシの心臓、脾臓及びブタのパンクレアチン及びペプシンで処理したもの	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
258	2006/06/28	60258	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	仔ウシ血清	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
259	2006/06/28	60259	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	ウシトランスフェリン	ウシ血液	ニュージランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
260	2006/06/29	60260	バクスター	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
261	2006/06/29	60261	バクスター	該当なし	ヒト凝固性たん白質(フィブリノゲン加第XIII因子)	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
262	2006/06/29	60262	バクスター	該当なし	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
263	2006/06/29	60263	バクスター	該当なし	トロンビン	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
264	2006/06/29	60264	バクスター	該当なし	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	無	無			
265	2006/06/29	60265	バクスター	該当なし	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ又はニュージーランド	有効成分・添加物	無	無	無			
266	2006/06/29	60266	バクスター	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
267	2006/07/04	60267	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン処理人免疫グロブリンG分層	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
268	2006/07/10	60268	科薬	トロンピン	トロンボプラスチン	ブタ肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			
269	2006/07/10	60269	味の素	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	ブラジル	有効成分	無	無	無			
270	2006/07/10	60270	科薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			
271	2006/07/10	60271	ベネシス	人ハプトグロビン	人ハプトグロビン	人血液	非献血:米国 献血:日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロストリジウム感染	N Engl J Med 2005; 353: 2433-2441	米国において、毒性、抗菌薬耐性、あるいはその両方が高まった Clostridium difficile の新菌株の出現により、関連疾患の発生率と重症度が上昇している可能性が示唆されている。2000年から2003年に本菌関連疾患の集団発生が起きた8医療施設から得た本菌の分離株187株を、2001年以前の分離株データベースと比較した。その結果、全施設の分離株で同定された最近のBI/NAP1株は、ガチフロキサシンとモキシフロキサシンに耐性を示すことが明らかとなった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであり、バリンホモ接合体サブグループがvCJDに対して感受性があることが初めて示された。この遺伝子型のvCJD感染者は長い潜伏期間を有している可能性があり、この間に水平感染が供血または無症候期の感染者に使用された汚染手術用具のいずれかから起きる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMIは感染効率高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。、VVIは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。BSEからヒトへの感染は種の壁の存在によって制限を受けているが、vCJDのヒトからヒトへの感染は実質的に壁が低くなっているように思われる。さらに、コドン129の遺伝型に関係なく、輸血のようなルートによって、vCJDの2次感染が起こりやすい可能性がある。潜伏期間の長い疾患はこれらのモデルによって予測ができ、疾患の伝播拡大の危険性や有意な公衆衛生上の問題を示すであろう。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高く、血液製剤によるHEV伝播の時期を示唆する結果が得られた。
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。HEV問診や抗体スクリーニングはHEV RNA陽性者の排除には有効ではない。
272	2006/07/11	60275	第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	米国	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
273	2006/07/12	60272	富士製薬工業	脳下垂体ホルモン剤	下垂体性性腺刺激ホルモン	更年期婦人の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
274	2006/07/12	60273	富士製薬工業	トロンビン	トロンボプラスチン	ウシ又はブタの肺	ウシ: ニュージーランド ブタ: デンマーク	製造工程	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
275	2006/07/12	60274	富士製薬工業	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国、ブラジル	有効成分	無	無	無			
276	2006/07/12	60276	富士製薬工業	トロンビン	トロンビン	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	Reuters (Alert Net) 2006年3月3日	2006年3月3日、スウェーデン当局は国内の農場で初めてBSE牛が確認されたと発表した。BSE牛が見つかった農場は隔離され、危険性のある動物は全て処分された。この牛は現行の安全対策を実施する前に、汚染した飼料を食べ、10年前に感染した可能性がある。
277	2006/07/12	60390	富士製薬工業	下垂体性性腺刺激ホルモン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	更年期婦人の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1294-1296	2004年米国で、WNV性脳炎発症8日目の65歳患者から採取した尿検体からWNV-RNAが検出された。しかし、その後の尿検体からは検出されなかった。血液中の中和抗体が尿へのWNV排泄を阻害しているのかもしれない。今後WNV感染患者の尿検体検査時期を検討する必要があるかもしれない。
278	2006/07/14	60277	日本メジック	診断薬	ガラクトシル人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要	
279	2006/07/19	60282	化学及血清療法研究所	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	スルホ化人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国(ベニロン)、日本(献血ベニロン-I)	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。	
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。	
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。	
280	2006/07/21	60278	日本オルガノン	ダナバロイドナトリウム	ダナバロイドナトリウム	ブタの小腸粘膜	ベルギー、ドイツ、フランス、スペイン、オーストリア、オランダ	有効成分	無	無	無				
281	2006/07/21	60279	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ムロモナブ-CD3	マウス腹水		有効成分	無	無	有				
282	2006/07/21	60280	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ合衆国またはカナダ	製造工程	無	無	有				
283	2006/07/21	60281	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ウマ血清	ウマ血液		製造工程	無	無	無				
284	2006/07/21	60283	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	ヒツジ(血液)	ヒツジ(血液)	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無				

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
285	2006/07/21	60284	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	A型ボツリヌス毒素	A型ボツリヌス菌 (Clostridium botulinum)	米国	有効成分	無	無	無			
286	2006/07/21	60285	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	ウシ(心臓、血液、乳、骨格筋、脾臓)	ウシ(心臓、血液、乳、骨格筋、脾臓)	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ	製造工程	無	無	有			
287	2006/07/24	60286	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型) (遺伝子組換え)	エプタコグ アルファ(活性型) (遺伝子組換え)	エプタコグ アルファ(活性型) (遺伝子組換え)	該当しない	有効成分	無	無	無			
288	2006/07/24	60287	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型) (遺伝子組換え)	ブタ脾臓由来トリプシン	ブタ脾臓(抽出物)	該当しない	製造工程	無	無	無			
289	2006/07/24	60288	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型) (遺伝子組換え)	ウシ胎仔血清	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、米国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
290	2006/07/24	60289	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型) (遺伝子組換え)	ウシ新生仔血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
291	2006/07/24	60290	三菱ウェルファーマ	アプロチニン製剤	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
292	2006/07/24	60291	日本製薬	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子複合体	血液凝固第Ⅷ因子複合体	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	CDR Weekly 2006; 16(4) HIV/STIs Reports	英国におけるHIVおよびAIDSの四半期最新情報(2005年12月末までのデータ)。HIV診断総数は増加を続けており、2005年度は7,700例を越えたと予想される。2004年から2005年のHIV診断数増加の大部分は男性と性交渉を持つ男性が占める。現在のところ2005年の新規のAIDS診断数は474例であった。1982年のサーベイランス開始以降の英国での累計はHIV診断数76,850例、AIDS診断数21,898例となった。
												伝染性紅斑	Transfusion 2005; 45: 1811-1815	6ヶ月間にわたり血液疾患患者に投与された合計2123の血液製剤について、パルボウイルスB19DNAの有無をPCRにより調べた。その結果、21製剤(1%)が陽性であった。試験期間中114例の患者のうち14例がB19DNA陽性の血液成分を投与されたが、急性B19感染症を呈した患者はいなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												E型肝炎	日本赤十字社 http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/01/dl/s0126-10e05.pdf	北海道赤十字血液センターで、献血者のHEV保有状況を調べた。平成16年11月1日から平成17年10月31日にブタ、シカなどの生肉、生レバーの喫食歴のある献血者は298,790人中802人(0.28%)で、その血液検体からHEV-RNAが1例検出された。平成17年11月1日から12月31日に生肉、レバー、ホルモンの喫食歴のある献血者は49,361人中13,835人(28.0%)で、その血液検体からHEV-RNAが5例検出された。平成17年1月1日から12月31日に、試行的HEV20プールの検査を行ったところ、295,442人中30人が陽性で、約1/10000の陽性率であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
293	2006/07/25	60292	持田製薬	インターフェロン ベータ	トリブジン	ブタ臓臓		製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
294	2006/07/25	60293	持田製薬	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチターゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
295	2006/07/25	60294	持田製薬	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
296	2006/07/25	60295	持田製薬	インターフェロン ベータ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
297	2006/07/25	60296	持田製薬	インターフェロン ベータ	インスリン	ウシ膵臓		製造工程	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
298	2006/07/25	60297	持田製薬	①インターフェロン アルファ(BALL-1) ②インターフェロン ベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	①米国 ②日本	添加物、製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
												細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	<i>Bartonella alsatica</i> は野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性 <i>Clostridium butyricum</i> が検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めてのC. <i>butyricum</i> による乳児ボツリヌス症と考えられる。
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
												HIV	AABB Weekly Report 12(13)	ギリシャでHIV陽性にもかかわらず供血した男性が「未必の故意」で起訴された。この男性の血液や血漿を輸血された患者2名がHIVを発症した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
299	2006/07/25	60298	ZLBベアリング	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
300	2006/07/25	60299	ZLBベアリング	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
301	2006/07/25	60300	ZLBベアリング	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
302	2006/07/26	60301	日本ケミカルリサーチ	ミリモスチム	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
303	2006/07/26	60302	日本オルガン	下垂体性性腺刺激ホルモン胎盤性性腺刺激ホルモン	①下垂体性性腺刺激ホルモン②胎盤性性腺刺激ホルモン	①更年期婦人尿②妊婦尿	①オランダ②ブラジル	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日 http://www.guardian.co.uk/frontpage/story/0,,1765531,00.html	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14カ国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月11日	インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。ヨーロッパでは帰国者による輸入例が報告されている。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
304	2006/07/26	60303	ゼリア新薬工業		結核菌熱水抽出物	Z-100原液	日本	有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
305	2006/07/26	60304	ゼリア新薬工業		全卵液	全卵液	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年1月7日	トルコ保健省は、H5N1トリインフルエンザウイルスに感染したヒト2例を更に確定した。5歳と8歳の小児で、両症例とも入院中である。当局によるとVan地方の病院では30人余の患者が治療を受けており、H5N1感染の可能性を評価中である。感染は病気の家禽との接触により起こったことが明らかとなっている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月2日	1月17日に重症の呼吸器疾患で死亡したイラク北部の15歳の少女が、イラクで初めてのH5N1トリインフルエンザウイルス感染ヒト症例であることが確定した。更に2検体が確定診断のため英国の研究所に送られている。イラクでは家禽でのアウトブレイクは確認されていない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月21日	アゼルバイジャンから英国の研究所に送られた11症例の検体中7症例がH5N1トリインフルエンザ陽性であった。5例は死亡例であった。陽性例中6例は南東部のSalyan Rayonにある小さな部落に住んでいた。Salyanでの調査で、死んだ白鳥の羽を採る作業が若い女性によって行われることが明らかとなり、感染症例の大部分が15から20歳の女性であることから、関連を調査中である。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月3日	エジプト保健省によりH5N1トリインフルエンザ感染であると以前報告された4症例について、全例がH5N1陽性であったことが英国の研究所で確定された。2例は死亡し、他の2例は回復した。エジプトは、2003年12月にベトナムで始まった現在のアウトブレイクで、ヒトでの確定症例を報告する9番目の国である。
306	2006/07/28	60305	アボット・ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	パリビズマブ(遺伝子組換え)		ドイツ	有効成分	無	無	無			
307	2006/07/28	60306	アボット・ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	マウスミエローマ細胞	マウス培養細胞株	米国	製造工程	無	無	無			
308	2006/07/28	60307	アボット・ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
309	2006/07/28	60308	アボット・ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	リボプロテイン	ウシ血液	オーストリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
310	2006/07/28	60309	アボット・ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
311	2006/07/28	60310	アボット・ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	濃縮リビッド	羊毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
312	2006/07/28	60311	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ヒトリンパ芽球細胞株	日本	有効成分	無	無	有			
313	2006/07/28	60312	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
314	2006/07/28	60313	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
315	2006/07/28	60314	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ふ化鶏卵(センドイウィルスを増殖)	鶏卵	日本	製造工程	無	無	有			
316	2006/07/28	60315	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	抗IFN- α モノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
317	2006/07/28	60316	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ乳由来カゼイン(センドイウィルスのポリペプトン)	ウシ乳	中国、ポーランド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
318	2006/07/28	60317	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ブタ由来酵素(センドイウィルスのポリペプトン)	ブタ臓腑	日本	製造工程	無	無	有			
319	2006/07/28	60318	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ハムスター(ヒトリンパ芽球細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
320	2006/07/28	60320	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
321	2006/07/28	60321	バクスター	人血清アルブミン	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	有	無			
322	2006/07/28	60322	バクスター	加熱人血漿たん白	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
323	2006/07/28	60323	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子阻害物質補正活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
324	2006/07/28	60324	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	該当なし	添加物	無	無	無			
325	2006/07/28	60325	バクスター	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	インスリン(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	有	無			
326	2006/07/28	60326	バクスター	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞株	該当なし	有効成分	無	有	無			
327	2006/07/28	60327	バクスター	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
328	2006/07/28	60328	バクスター	ルリオクトコゲアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用-1)	ウシ血液	米国	製造工程	無	有	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
329	2006/07/28	60329	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	アプロチニン	ウシ肺	ニュージーランド	製造工程	無	有	無			
330	2006/07/28	60330	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ血液	オーストラリア	製造工程	無	有	無			
331	2006/07/28	60331	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用-2)	ウシ肝臓	米国又はカナダ	製造工程	無	有	無			
332	2006/07/28	60332	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	有	無			
333	2006/07/31	60319	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
334	2006/08/03	60333	ベネシス	ウロキナーゼ	精製ウロキナーゼ液	人尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであり、バリンホモ接合体サブグループがvCJDに対して感受性があることが初めて示された。この遺伝子型のvCJD感染者は長い潜伏期間を有している可能性があり、この間に水平感染が供血または無症候期の感染者に使用された汚染手術用具のいずれかから起きる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。、VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。BSEからヒトへの感染は種の壁の存在によって制限を受けているが、vCJDのヒトからヒトへの感染は実質的に壁が低くなっているように思われる。さらに、コードン129の遺伝型に関係なく、輸血のようなルートによって、vCJDの2次感染が起こりやすい可能性がある。潜伏期間の長い疾患はこれらのモデルによって予測ができ、疾患の伝播拡大の危険性や有意な公衆衛生上の問題を示すであろう。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高く、血液製剤によるHEV伝播の時期を示唆する結果が得られた。
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。HEV問診や抗体スクリーニングはHEV RNA陽性者の排除には有効ではない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。ヒトのプリオンに感染した場合の潜伏期間は、50年を超える可能性がある。
335	2006/08/03	60334	デンカ生研	発疹チフスワクチン	卵黄囊	ニワトリの受精卵	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無	鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2108-2112	ヒトから分離されたH5N1ウイルスHAは開裂部位に塩基性アミノ酸が連続しており、ヒトへ順化していない段階で50%以上の致死率を示す。また同ウイルスに2ヶ所のアミノ酸変異を導入するだけでヒト型受容体への親和性を獲得する。
												鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2103-2107	2003年12月から2005年5月に、トリインフルエンザA/H5N1ウイルスはベトナム、タイ、カンボジアで100人に感染し、54人が死亡した。大部分はトリからの感染であるが、ヒト-ヒト感染も報告されている。サーベイランス網構築、ワクチン開発、抗ウイルス剤備蓄などが必要である。
												鳥インフルエンザ	侵襲と免疫 2005; 14(4): 105-110	トリインフルエンザに関する総論。トリインフルエンザウイルスの構造、疫学、病原性、ヒトへの感染性、診断法、防疫法について述べている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
336	2006/08/09	60335	日研化学	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト(閉経期婦人尿)	中国	有効成分	無	無	無			
337	2006/08/10	60336	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエローマ細胞及びマウス抗チソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作成したハイブリドーマ	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
338	2006/08/10	60337	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児肺細胞	米国	有効成分	無	無	無			
339	2006/08/10	60338	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
340	2006/08/10	60339	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
341	2006/08/10	60340	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	ブタペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
342	2006/08/11	60341	興和	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児の肺に由来する正常二倍体線維芽細胞	米国	有効成分	無	無	無			
343	2006/08/11	60342	アボット・ジャパン	レビバリンナトリウム	レビバリンナトリウム	ブタ小腸粘膜ヘパリン	中国	有効成分	無	無	無			
344	2006/08/11	60343	興和	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエローマ細胞及びマウス抗チソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作製したハイブリドーマ	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
345	2006/08/11	60344	興和	チソキナーゼ	ペプトン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			
346	2006/08/11	60345	興和	チソキナーゼ	ウシの血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
347	2006/08/11	60346	興和	チソキナーゼ	人血清アルブミン	ヒト血清	日本	添加物	無	無	無			
348	2006/08/11	60348	大日本住友製薬	酢酸ソマトレリン	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	無	無	無			
349	2006/08/14	60347	大日本住友製薬	コンドロイチン硫酸鉄	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨(気管)	米国、メキシコ	添加物	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
350	2006/08/15	60349	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。
351	2006/08/15	60350	中外製薬	エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
352	2006/08/15	60351	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	溶連菌抽出物注射用		有効成分	無	無	無			
353	2006/08/15	60352	中外製薬	エボエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン(BSA)	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。
354	2006/08/15	60353	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ペプトンN粉末	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。
355	2006/08/15	60354	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	牛肉	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
356	2006/08/15	60355	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	Tedd Hewitt Broth	ウシ:心臓、骨格筋、骨髄、脂肪組織、結合組織、乳 ブタ:心臓、隣臓、胃	ウシ:米 国、オーストラリア、ニュージーランド ブタ:米 国、イタリア、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはない述べている。
357	2006/08/16	60356	日本生物製剤	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤	日本	有効成分	有	無	無	BSE	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例について発表した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスクとは？、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか？、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するものは？などが記載されている。
												HTLV	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年1月20日	カナダNunavut保健局は、HTLV-1に関連して少なくとも1人の死亡例、ならびに20人未満の感染例を報告した。本報告に対応して、Nunavut保健当局および社会サービスは妊婦および一般集団に対し、検査の提供を10月に開始した。2005年12月7日現在、300人が検査を受けたが、感染者およびHTLV-1関連死亡者の正確な数は公表されていない。カナダ血液サービスは1990年以降、献血血液のHTLV-1スクリーニングを行っているが、年間80万供血あたり平均10~12件が陽性である。Nunavutで15例が感染したとしても、人口29000人中、感染率は0.05%である。
												異型クローン フェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006: 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	ProMED20060218-0030	Zagrebから当地に届いた報告によれば、クロアチア政府は2月16日、国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。クロアチア国営テレビは、診断確定のため、問題の5才令のウシの脳検体が、英国のWeybridge研究所に送られたと報じた。
												C型肝炎	英国保健省 Press releases 2006/0076 2006年2月27日	汚染された血液を介してC型肝炎に患者がどのように感染したかに関するレビューが発表された。このレビューは1973年から1991年の文書に焦点を当て、実施された重要な決定の分析を行っている。C型肝炎が重篤な結果をもたらすことは1989年に明らかとなり、1991年には信頼できる試験法が開発された。血液製剤の自給ができていたとしても、C型肝炎の感染から血友病患者を防げたわけではないことなどが記載されている。
												HIV	英国保健省 Press releases 2006/0076 2006年2月27日	1970年代から1980年代初頭にかけて、汚染された血液を介してC型肝炎およびHIVに患者がどのように感染したかに関するレビューが発表された。このレビューは1973年から1991年の文書に焦点を当て、実施された重要な決定の分析を行っている。
												BSE	ProMED20060307-0020	スウェーデンで狂牛病第1例(12才乳牛)が発見された。妊娠後期に起立不能症になり、治療に反応しなかったため殺処分された。迅速診断の結果、BSE陽性であり、次いでスウェーデン国立獣医学研究所でウェスタンブロット法と免疫組織化学染色を行ったところ、いずれも陽性であった。確認のために検体を英国に送ったが、結果はやはり陽性であった。
												感染	FDA Public Health Notification 2006年3月2日	FDAは、BioMedical Tissue Services(BTS)により回収されたヒト組織に関する情報の更新を医療関係者に通知した。FDAのドナー適格要件に適合していない可能性があったり、感染症について適切なスクリーニングをされなかったおそれのあるヒト由来の骨、皮膚、腱を含む組織はBTSにより回収された。BTSドナーから加工された組織インプラントを受けた患者には感染症伝播のリスクがあることを知らせ、検査を受けるように伝えることを医療関係者に強く求めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060314-0020	ウエスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 5285-5290	ヤギおよびウシのプリオン蛋白の発現を抑制することができるshRNAを、レンチウイルスベクターを用いて、ヤギ線維芽細胞にGFPと共発現させた。これらの細胞を用いて核移植を行い、クローンヤギ胎仔を作成した。クローン胎仔では検査した全ての組織でGFPを発現し、PCRでPrP shRNAをエンコードする遺伝子の存在が確認された。脳組織をウエスタンブロットしたところ、対照胎仔に比べ90%以上のPrP発現減少を示した。ウシの卵の卵黄周囲に組み換えウイルスを注射し、in vitroで受精させ、培養したところ、76%の胚細胞がGFPを発現し、PrP標的shRNAの発現を示唆した。この方法は耐病性のある遺伝子組み換え家畜を作り出すのに有用である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060405-0020	2005年2月に日本ではじめて報告された変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の患者は51才の男性で、1990年BSEの流行中の英国で約24日を過ごした。彼は訪問中に機械処理で回収した肉を食べたことが判っており、フランスなど他のヨーロッパの滞在国あるいは日本での暴露の可能性は否定できないが、英国訪問時がもっとも疑われている。英国での暴露が感染の原因だとすれば、潜伏期間は11年半であったことになる。発症から19ヵ月後の脳波(EEG)は、周期性同期性放電(periodic synchronous discharges: PSD)を示さなかった。しかし30ヵ月以降では同パターンが出現した。これまでには、vCJD患者のEEGでのPSD所見についての報告はなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060405-0020	輸血でだれもがvCJDに感染する可能性がある。しかし遺伝子によってどんな症状が出るかが決定される可能性がある。これまでのところ、ヒトvCJD患者の全例が、ある特定の遺伝的プロフィールを持つ者であった。しかし、国家CJD監視部局と動物保健施設の研究者らのマウス実験によると、他の遺伝子型の者も危険があることが示唆される。Lancet Neurologyによると潜伏期が一部の者で長くなる可能性がある。これまでに英国で161例、フランスで18例、世界の他の国で12例のvCJD患者が報告されているがほとんどが英国出身者である。現在のところヒトが、輸血などの経路でどのくらいvCJDに感染しやすいかは明確でない。
												A型肝炎	ProMED20060408-0040	オークランド地区公衆衛生局(ARPHS)とニュージーランド保健省は、オークランド地区のA型肝炎集団発生の調査中であり、2006年1月15日から4月7日までの間に29人の患者を確認した。患者には、潜伏期間内のトンガ(13人)とサモア(9人)への渡航歴もしくは最近海外旅行から帰国した人との濃厚な接触が共通項として認められた。
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日、16日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はBritish ColumbiaのBSE疑いウシの確認検査を実施していることを公表した。このウシはカナダ国内BSEサーベイランスプログラムによりFraser Valley農場で確認された6歳の牝牛である。州による初期スクリーニング検査後、更なる分析のためにWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターに送付された。4月16日、最終的な検査の結果、このウシがBSEであることが確定したと発表した。
												BSE	ProMED20060426-0060	2006年4月24日、エストニア農業省は、屠殺場での定期検査(簡易迅速検査)により、死亡した11才令の乳牛のBSE感染を確認したと発表した。もし診断が確定されれば、今回の症例は同国で初のBSE症例となる。農業省広報部は、問題のウシはエストニア南東部にあるJogevamaa郡の牧場で飼育されていたと発表した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。勧告として、ドナーの暫定的延期基準、さらに加工される血漿は血漿由来製品の製造に用いるウイルス不活性化処理では確実にウイルスを不活性化しなくてはならないことから、これらの勧告による影響を受けないことなどについて記載されている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシービエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
												鳥インフルエンザ	CDC Emerg Infect Dis 12(6) 2006年6月	2004年1月から、タイでは22名のヒトがトリインフルエンザAウイルス(H5N1)に感染し、内14名が死亡した。2005年11月28日に発症し、12月7日に死亡した患者(5歳少年)の死亡当日の血液検体から生きたH5N1ウイルスが確認された。ヒトの血清または血漿中に生きたインフルエンザウイルスが観察されることは稀であるが、最近ではベトナムでも報告されており、患者の血液検体を取り扱う際にはウイルスの拡大を防ぐための厳重な注意が必要である。
358	2006/08/16	60357	味の素	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
359	2006/08/16	60358	第一ラジオアイソトープ研究所	ヨウ化人血清アルブミン(131I)	ヨウ化人血清アルブミン(131I)	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無			
360	2006/08/18	60359	アステラス製薬	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	CHO細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞		製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
361	2006/08/18	60360	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED20060105-0020	ケニアで炭疽感染により2名が死亡した。うち1例は炭疽感染したウシを食べたためと考えられた。Itara村では同様のウシを食べた500人以上のうち、29名が炭疽陽性であった。ケニアでは家畜、野生動物に炭疽感染が広がっている。
												細菌感染	Ned Tijdschr Geneeskd 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。
												炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レソトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
362	2006/08/18	60361	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED20060105-0020	ケニアで炭疽感染により2名が死亡した。うち1例は炭疽感染したウシを食べたためと考えられた。Itara村では同様のウシを食べた500人以上のうち、29名が炭疽陽性であった。ケニアでは家畜、野生動物に炭疽感染が広がっている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。
												炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レソトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
363	2006/08/18	60362	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ膵臓	オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED20060105-0020	ケニアで炭疽感染により2名が死亡した。うち1例は炭疽感染したウシを食べたためと考えられた。Itara村では同様のウシを食べた500人以上のうち、29名が炭疽陽性であった。ケニアでは家畜、野生動物に炭疽感染が広がっている。
												細菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 105-107	オランダで1993年から2003年の間に新生児3例(女児2例、男児1例)でリステリア・モノサイトゲネスによる侵襲性感染が確認された。女児1例は後遺症もなく存命だが、他の2例は新生児期に死亡した。死亡例のうち1例は母親が低温殺菌されていない牛乳を飲んだことが原因である。この感染症は稀であるが重篤なため、妊婦に菌に汚染されたおそれのある食料を食べないようにアドバイスすることは重要である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	Trop Doct 2006; 36: 51-53	トルコでウシの死体を感染源とする炭疽感染により3例の患者が発生した。炭疽は髄膜、皮膚および喉頭に影響を及ぼし、髄膜炎を併発した患者1例は死亡した。死んだウシに接触したり、肉を食べた20人は全員、予防的にテトラサイクリンを服用し、健康である。
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日	2006年4月10日、レソトで炭疽が発生した。5月17日までにウシ51頭、ヒツジ70頭、ウマ39頭が死亡した。死んだ動物の肉を食べた30人が感染し、うち5人が死亡した。
364	2006/08/22	60369	三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	デオキシリボヌクレアーゼ	牛の臍臓	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
365	2006/08/22	60370	三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	フィブリノリジン	牛の血漿	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
366	2006/08/22	60371	麒麟麦酒	エボエチンアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	結核	ProMED20060201-0040	米国ミネソタ州北東部で家畜の群れ5群がウシ結核に感染し、全て同一株であると思われる。連邦政府はミネソタ州の家畜の売買を制限すると思われる。
												結核	ProMED20060201-0040	米国農務省USDAは、症例確認を受けて、ミネソタ州を家畜(ウシ)に結核の存在しない(TB-free)州の地位から降格させる。
												BSE	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体を採取していた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060314-0020	米国USDAのClifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。アラバマ州の獣医によって採取されたヘタリウシの検体はジョージア大学の研究所に送られたが、迅速スクリーニング検査では結論が出ず、NVSL(National Veterinary services Laboratories)に送られ免疫組織学的方法とウエスタンブロット法で検査された。今回はウエスタンブロット法による検査で陽性であることが判明し、BSE陽性と確定された。アメリカのBSE発生率は極めて低いことを強調している。
												BSE	米国 Alabama Department of Agriculture & Industries 2006年5月2日	アラバマ州で発生したBSE陽性ウシに関する疫学的調査の結果を発表した。アラバマ州当局及びAPHIS(動植物衛生検査部)は36カ所の農場および5カ所の競り市を調査し、陽性ウシの血縁を含む集団のDNA検査を実施したが、この調査でBSE陽性のウシの由来となる集団を明らかにできなかった。また、FDAは、1997年のfeed ban以降に陽性ウシに飼料を供給していた可能性のある飼料工場に対して調査を実施したが、禁止部位を扱っていた全ての工場は、feed banに従っていることが判明した。
												BSE	ProMED20060504-0040	米国農務省はアラバマ州で発生したBSE陽性牛に関する疫学的調査結果について声明を出した。感染牛は安楽死処分され、検体採取後に焼却処分された。農務省動植物衛生検査部(APHIS)プロトコールに従って、家畜やヒトの食物連鎖からは除外された。当局の調査によれば、問題のウシは10歳令以上でFDAによる1997年の飼料規制令施行前に生まれていた。
												ボツリヌス中毒	ProMED20060525-0040	オーストラリアにおけるウシの大量死の原因は、稀なボツリヌス菌株による中毒であった。専門家は現在、稀なボツリヌス菌株が、Murray Bridge近郊の酪農場で発生した疾病の原因であると考えている。
												BSE	ProMED-mail 20060601.1525	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED-mail 20060607.1588 [1]	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないとしている。
												BSE	ProMED-mail 20060607.1588 [2]	ヨーロッパおよび米国の科学者らは、BSEの新株である可能性があるウシにおける新たなTSEの発生を追跡している。家畜におけるプリオン病に関する国際会議において、フランスおよびイタリアの科学者らは5～15歳の少数のウシにおいてどのようにこの疾患が検出されたかを述べた。この新株は潜伏期間や検査においてBSEと異なる特徴を示し、当初、感染が疑われる死亡動物の調査中ではなく、生存動物を対象にした積極的調査によって発見された。
												ボツリヌス中毒	ProMED-mail 20060629.1797	オーストラリア南部の乳牛農場で農場経営に打撃を与えるような希少株によるボツリヌス中毒症の大発生があった。農場主はマレーブリッジのジャーボンス地区の農場で2006年5月以降に80頭の牛を失った。B型ボツリヌス中毒症が疑われたが、初期の検査では何も発見されなかった。新たな検査によってウシの糞からB型ボツリヌス毒素が見つかった。この農場で起きた流行は通常よく見られるC型およびD型ではなく、B型ボツリヌス菌が原因であることが示唆された。
367	2006/08/22	60372	麒麟麦酒	エボエチナルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	10数年前に樹立したマスタセルバンクに使用した動物の細胞株	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
368	2006/08/22	60373	麒麟麦酒	エポエチナルファ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓由来トリプシン	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。他の専門家は「トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方がいい。」と述べた。北京の中国科学院のGeorge Gao氏の率いる研究者らは、「主に四川省の204名が罹患した2005年の流行は唯一のものではなく、1998年の中国江蘇省での流行と、よく類似していた」と報告した。1998年の流行では感染した25名のうち14名が死亡した。
369	2006/08/23	60374	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモスチム	ミリモスチム	ヒト尿	中国、台湾	有効成分	有	無	無	髄膜炎感染	Lancet 2006; 367: 419-423	中国Anhui省で2003~2004年に発生した髄膜炎から単離された34株のうち31株、ならびに2004~2005年の30株のうち17株がセログループCの髄膜炎菌であった。中国全土の調査で、2004~2005年に単離された542株のうち58株がセログループCの髄膜炎菌であった。106のセログループC株を分析したところ、89株が同一のPFGE(pulsed-field gel electrophoresis)パターンを示し、AH1と名づけられた。MLST(multi-locus sequence typing)分析を行った28株のうち25株がシークエンス型4821(ST-4821)で、今まで報告されたことがない新しい強毒系統のシークエンス型であった。
370	2006/08/23	60375	日本製薬	①加熱人血漿たん白 ②人血清アルブミン(5%) ③人血清アルブミン(20%) ④人血清アルブミン(25%) ⑤乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ⑥トロンピン ⑦乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ ⑧人免疫グロブリン	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	製造工程 ①~⑨、 添加物⑨	無	無	無			
371	2006/08/23	60376	ZLBベリング	人C1ーインアクチベーター	人C1ーインアクチベーター	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
372	2006/08/23	60377	ZLBベアリング	人血清アルブミン 人免疫グロブリンG 破傷風抗毒素 フィブリノゲン加第XIII因子 ペプシン処理人免疫グロブリンG 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
373	2006/08/24	60378	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌はMycobacterium mageritenseと同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性Clostridium butyricumが検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めてのC. butyricumによる乳児ボツリヌス症と考えられる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化するのを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
374	2006/08/24	60379	持田製薬	日本薬局方 注射用胎盤性腺刺激ホルモン	日局 胎盤性腺刺激ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	第75回日本感染症学会西日本地方会総会 2005年11月17-18日	50年ほど前に人工気胸術を受けた後、慢性被包化膿胸となり、咳、かつ痰が続いていた77歳女性が、発熱および病状の悪化のため緊急入院した。かつ痰検査を行ったところ、抗酸菌が検出され、分離菌は <i>Mycobacterium mageritense</i> と同定された。本症例は日本におけるヒトの本菌感染症の第一例目である。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	<i>Bartonella alsatica</i> は野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。
												ボツリヌス中毒	IASR 2006; 27: 46-48	2004年12月に呼吸困難、意識障害で入院した9ヶ月の男児の便からE型ボツリヌス毒素とE型ボツリヌス産生性 <i>Clostridium butyricum</i> が検出され、本菌による乳児ボツリヌス症と診断された。感染源検査の結果、患者自宅の風呂排水口から同一の菌が検出された。本症例は日本で初めての <i>C. butyricum</i> による乳児ボツリヌス症と考えられる。
												ウイルス感染	WHO 2006年2月17日 http://www.who.int/csr/don/2006_02_17a/en/index.html	2005年3月28日から2006年2月12日の間、フランス領レユニオンで1722例のチクングンヤが報告された。数学的モデルからの推計では2005年3月以降、11万人がチクングンヤウイルスに感染した可能性がある。南西インド洋の他の国でも報告があった。チクングンヤは死に至ることは希であるが、WHOは調査団を派遣する計画である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会(2006年4月20-21日)	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月~2003年9月、2005年1月~7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
												鳥インフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒト-ヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
375	2006/08/24	60380	持田製薬	日本薬局方 ヘパリンナトリウム注射液	日局 ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス	有効成分	無	無	無			
376	2006/08/25	60363	三共エール薬品	ダルテパリンナトリウム	血液凝固阻止剤	豚小腸	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
377	2006/08/25	60364	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	人血清アルブミン	ヒト血液	米国	添加物	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO 2006年5月18日、5月23日、5月31日、6月6日	インドネシアでH5N1トリインフルエンザに感染したヒト7例中6例が死亡した。感染経路として家禽からヒトへの感染だけでなく、ヒトからヒトへの感染の可能性が指摘されたが、現時点ではヒトからヒトへ効率よく感染することはないと考えられる。
378	2006/08/28	60365	シェリング・ブラウ	インターフェロナルファ-2b (遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005; 15(51)	英国CJD事例委員会の第4回年次報告が発表された。2003年9月1日から2004年8月31日の間に、54例が報告され、そのうち34例は過去の侵襲性医療が関係し、20例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血が関係していた。報告には委員会がこれらのケースにどのようにアドバイスしたかも記載し、特に血液製剤を通してのvCJD暴露の管理について留意している。
												デング熱	ProMED20060111-0020	インドネシアで2005年12月のデングウイルス感染者数は61名となり、10月の22名、11月の20名に比べ、大幅に増加した。Yogyakarta地域Bantul地区では豪雨が続き、2006年1月にはさらに増加すると思われる。ネットアイシマカのポウフラがいない地区は、この地域では67%に過ぎない。雨季に加え、衛生状態が不良であるとも感染者数を増加させている。
												感染	AABB Weekly Report 2006; 12(3): 4	New Yorkの葬儀店が家族の同意を得ずにヒトの組織を不法にBiomedical Tissue Serviceに販売し、書類が改ざんされ、5社に売られた件に関して、上院議員がFDAに組織移植産業にさらに監視を強めるよう要請した。2005年10月にFDAは同社により販売された組織の回収を始めた。しかし、12月に、背中の中手術中に同社の骨片を移植された女性が梅毒に感染したことが報告された。
												デング熱	ProMED20060128-0020	ブラジル、リオデジャネイロで過去5週間に発生したデング熱流行により、少なくとも2名が死亡した。2006年1月26日までに217名がデング熱に感染しており、2005年同月の患者数の約4倍に上る。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006: 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
												ウイルス感染	ProMED20060204-0090	セーシェルにおいて2000名近くがインド洋の3島に拡がる蚊の媒介する疾患に感染していると政府地域医療局長が述べた。、チクングンヤと診断された患者が2005年11月以降増加しており、2006年1月だけで1000名近い患者が報告されている。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年2月20日	オーストラリアにおいて、蚊により媒介される感染症であるロズリバーウイルスとパーマフォレストウイルスの発症数が増加している。2006年1月中の感染者数は、各々、838例および127例で、過去5年間の平均の約4倍および約2倍と推定されている。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
												ウイルス感染	ProMED20060305-0110	2005年3月28日から2006年2月19日の間に、レユニオン島では31人の臨床医ネットワークにより、2406例(2月13日から19日の333例を含む)のチクングンヤ患者が診断された。数理モデルによれば2005年3月からの患者数は157000例にのぼり、うち22000例は2月13日から19日に発症したと推定される。
												感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年3月10日	米国ミネソタ州保健局によると、男性と性交渉を持つ男性(MSM)における感染性梅毒の症例数は2004年と比較して約3倍になっている。MSMの症例のうち約37%はHIVにも感染していた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												リンパ性脈絡髄膜炎	CDC/MMWR Weekly 2006; 55(14): 398-399	2005年5月、ベットのげっ歯類から感染したと思われた共通のドナーから臓器移植を受けた3例のレシピエントの死亡にLCMVが関与していた。同年8月にコネチカット州公衆衛生局はLCMV感染症の最近の発生率、LCMVに関する認識の程度、および検査の頻度について病院検査室および感染症医師の調査を行った。その結果、医師はLCMVを知っているが、LCMV検査は頻繁には行われておらず、LCMVを考慮する必要性を認識していないようであった。LCMV感染の頻度を調べ、ベットの感染を監視するためには更に体系的な努力が必要である。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(17): 6	英国のCJD患者7例は1970年から2003年の間にヒト硬膜移植により感染していた。J Neurol Neurosurg Psychiatrによると、英国CJDサーベイランスシステムはCJD症例全てを把握する計画である。英国ではヒトでのCJD感染リスクは未知であるが、1973年から2003年の間に同治療を受けた患者におけるCJD感染リスクは、オーストラリアでは500例中1例、日本では1000例から2000例中1例と概算されている。
												感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月5日	2004年におけるカナダの感染性梅毒の感染率は10万人中3.5人で、1997年の報告と比較して約9倍になった。特に男性での増加が著しく、2004年の報告例のほぼ90%が男性で、1997年の15倍以上になった。また男性患者の82%が30~59歳である。カナダでの性感染症の1位はクラミジアで2004年には約63000例(10万人中197.1人)が報告され、1997年より70%以上増加した。2位は淋病で、2004年には10万人中28.9人で1997年の約2倍であった。
												ウイルス感染	ProMED20060507-0030	ターニャウイルスはウエストナイル様の脳炎をヒトに起こしうるウイルスで、ヨーロッパの蚊、ウサギ、トリの間で一般的であり、既にこの様な感染症に罹患し死亡者が出ている可能性がある。毎年50人程度の英国人がウイルス性脳炎で死亡しているが、このうち原因病原体が判明しているのは40%以下である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(SS04): 23-37	米国の2004年におけるマラリア症例は1324例であり、2003年より3.6%増加した。海外でマラリアになった合衆国民間人775例の内、CDCが推薦する予防薬を使用した人は20.6%しかいなかった。米国内で感染した4例中3例は先天的感染によるもので、残り1例は研究室の蚊によるものであった。あった。
												C型肝炎	J Hosp Infect 2006; 63: 65-69	使用に衛生的な問題があった毛細血管血糖測定器(Roche Diagnostics社製Glucotrend)を介して、HCV感染者から非感染者への伝播が発生した。同病院ではこの測定器を購入して以来、抗HCV抗体陽性の糖尿病患者20名が入院しており、装置を使用した患者についてレトロスペクティブな調査を行った。検査を受けた995例中19例が抗HCV陽性であった。これは通常のフランス人における感染率よりも高かった。
												E型肝炎	日本輸血学会雑誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。HEV問診や抗体スクリーニングはHEV RNA陽性者の排除には有効ではない。
379	2006/08/30	60366	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人血液凝固第八因子	血液凝固第八因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	パルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりパルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
380	2006/08/31	60367	持田製薬	日本薬局方トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int/ /Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
381	2006/08/31	60368	持田製薬	日本薬局方トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
												BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例を発表したが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
382	2006/08/31	60381	東菱薬品工業	ソルコセリル	ソルコセリル	幼牛血液抽出物	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	異型クローンフェルト・ヤコブ病	Am J Pathol 2006; 168: 151-157	vCJD病患者の脳に蓄積する異常プリオン蛋白について、従来の抗体と1型に特異的な新しい抗体を用いてウェスタンブロット法により検討した。その結果、2型だけでなく、1型も少ないが脳内に広く存在することが初めて明らかになった。
												細菌感染	J Clin Microbiol 2006; 44: 278-279	Bartonella alsaticaは野生ウサギに菌血症を引き起こすが、フランスで74歳の心内膜炎の男性患者から本菌が初めて同定された。この患者は3週間の発熱で入院し、弛張熱、喀血性の咳、心雑音、脾腫、下肢水腫などを呈し、大動脈瘤と大動脈弁輪周囲の膿瘍を有した。患者はウサギの飼育を担当していた。本菌は血清学的方法、培養、また大動脈弁切片のPCRにより同定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レプトスピラ症	Int. J. Syst. Evol. Microbiol 2006; 56: 593-597	タンザニアではレプトスピラ症の感染率は家畜やげっ歯類で一般に高い。家畜から単離されたレプトスピラを血清学および分子学的に同定を行ったところ、RM1とコードされた単離体は、セログループ IcterohaemorrhagiaeのL.kirschneri種の新しい変異型であり、Sokoineと名づけられた。
383	2006/08/31	60382	東菱薬品工業	ヘモコアグララーゼ	ヘモコアグララーゼ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			